クボタトラクタ

取扱説明書

GL 35・40 43・46・53

F-6803

ご使用前に必ずお読みください

Kubota

トラクタ＋安全五憲章

1・道路を走行するときは，
ブレーキペダルを連結します。

2・農道を走行するときは，
スピードを落とし**路肩**に注意します。

3・ほ場へ出入りするときは，
スピードを落とし**あぜに直角**に走行します。

4・トラクタや作業機を点検調整するときは，
必ず**エンジンを止め，油圧ロック**をします。

5・補助者と共同作業を行なうときは，
合図をし**安全を確認**します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は，安全五憲章のとおりですが，これ以外にも本文の中で **安全ポイント** として説明のつどとり上げております。

更に，安全のポイントを抜粋した**安全注意ポスタ・納入品安全説明書**を別冊にして添付しておりますので，よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は，製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買いあげの製品がいつまでもすぐれた性能を発揮するようこの冊子をご活用ください。また、お読みになった後必ず大切に保存し，わからないことがあったとき取出してお読みください。

なお，製品の仕様変更などにより，お買いあげの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

また，この取扱説明書は仕様の異なった次の製品を合せて表示していますので，お買いあげの製品の仕様をお確めのうえ，おまちがいのないようお願いいたします。

- 大きさ別によって……「35仕様」「43仕様」(小型特殊自動車)
  「40仕様」「46仕様」「53仕様」(大型特殊自動車)
- モンローマチック付き……「M仕様」
- モンローマチックオート付き……「MA仕様」
- モンローマチックオート・ドラフト付き……「MAD仕様」
- 独立PTO付き……「N仕様」
- 安全フレーム付き……「40仕様」「46仕様」「53仕様」
  「35Y仕様」「43Y仕様」

説明はGL-53を基本とし，GL-53と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。

34550-1921-3

目次

サービスと保証について……1

小型・大型特殊自動車としての取扱い……2

運転に必要な装置の取扱い……4

スイッチとメータの取扱い……4
運転装置の取扱い……7
作業機昇降装置の取扱い……13
モンローマチック【M仕様】・モンローマチックオート【MA仕様】
・モンローマチックオートドラフト【MAD仕様】の取扱い……15
三点リンク装置の取扱い……20
輪距の調整……21

上手な運転のしかた……23

エンジン始動のしかた……23
エンジン停止のしかた……24
ならし運転……24
暖機運転……24
発進・走行……25
停車……26
運転中の作動点検……26
旋回……27
坂道での運転……27
ほ場への出入り時の注意……27
トラックへの積み・降ろし……27
公道走行中の注意……28
パワーステアリングの取扱い上の注意……29
安全フレームとシートベルトについて
【GL-40・46・53・35Y・43Y仕様】……29

トラクタ使用前の点検について(仕業点検)……30

トラクタの簡単な手入れと処置……31

定期点検箇所一覧表……31
給油(水)一覧表……32
燃料について……33
燃料の空気抜きのしかた……33
冷却水について……34
各部への給油と交換……36
フィルタの交換と洗浄……38
各部の点検・調整……39
グリースの注入と注油……43
電気系統の点検……44
パイプ類の点検……46
長期格納時の手入れ……47
エンジンの不調と処置……48

付　表……49

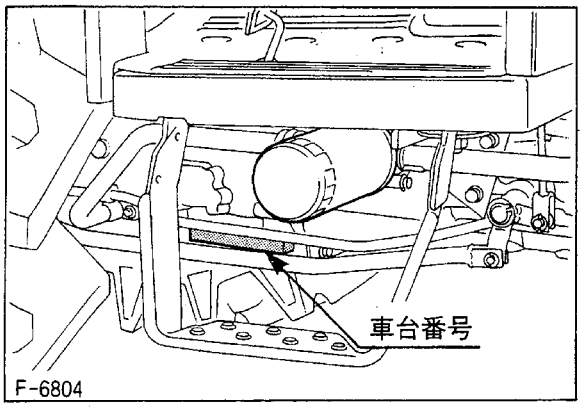
主要諸元……49
標準付属品……51
推奨オイル・グリース一覧表……52
主な消耗部品一覧表……53
アタッチメント一覧表……54
インプルメント一覧表……56

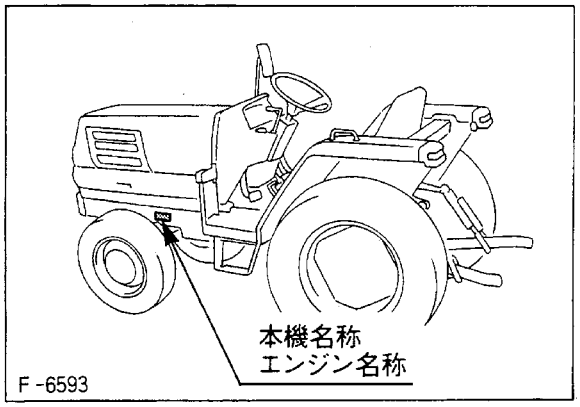
作業ごとの一般的な調整要領……58

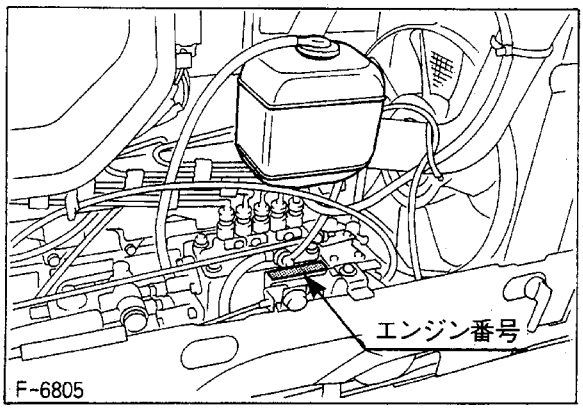
型式検査(国検)成績表……61

サービスと保証について

この製品には,サービスブックが添付してあります。詳しくはサービスブックをご覧ください。
なお，ご使用中の故障やご不審な点及びサービスに関するご用命は，お買いあげいただいた販売店・農協・弊社支店又は㈱クボタアグリに，それぞれ「ご相談窓口」を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際　(1)本機名称と車台番号
　　(2)エンジン名称とエンジン番号
を併せてご連絡ください。







農機型式名	安全鑑定適合番号	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号
クボタGL-35	16021	クボタGLGD	農1847号
クボタGL-43	16023	クボタGLGD	農1847号

農機型式名	安全鑑定適合番号	大型特殊自動車車両型式名	新型自動車登録番号
クボタGL-40	16022	クボタGLKD	新型自動車第91760号
クボタGL-46	16024	クボタGLMD	新型自動車第91759号
クボタGL-53	16025	クボタGLND	新型自動車第91758号

農機型式名	形式検査(国検)合格番号
クボタGL-35	91063
クボタGL-40	91064
クボタGL-43	91065
クボタGL-46	91066
クボタGL-53	91067
クボタGSF43 (安全フレーム)	91027
クボタGSF53 (安全フレーム)	91028
クボタGSQ43 (安全キャブ)	91032
クボタGSQ53 (安全キャブ)	91033

●検査成績表は61～67ページをご覧ください。
(安全キャブ検査成績表はキャビン付取扱説明書16～17ページをご覧ください。)

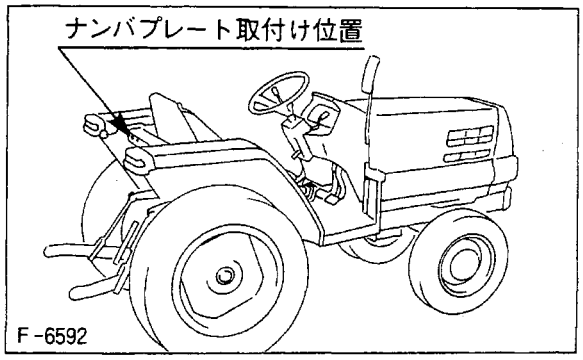
小型・大型特殊自動車としての取扱い

小型特殊自動車について

■届出

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届出，ナンバプレートの交付を受けなければなりません。

（手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，販売店・農協にご相談ください。）



■運転免許

公道走行時は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■自動車保険のお勧め

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

■小型特殊自動車とは

車体の大きさ	全　長	4.70m以下
	全　幅	1.70m以下
	全　高	2.00m以下
最　高　速　度		15km／時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

上記の条件を満足する構造を有する自動車で，このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので，次のようなことには特にご留意ください。

(1)認定を受けたエンジン以外は，搭載して運行することはできません。

(2)認定時の構造を変更(大径車輪やフロントローダなどを装着)した状態では，運行することはできません。

(3)エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。

大型特殊自動車について【GL-40・46・53仕様】

GL-40・46・53仕様は，大型特殊自動車として認可されておりますから，次の手続きが必要です。

■登録

大型特殊自動車として登録申請し，ナンバプレートの交付及び封印の取付けを受けなければなりません。

■自動車保険

大型特殊自動車の運行には，自動車損害賠償責任保険が必要です。

■運転免許

公道を走行する場合は，必ず大型特殊自動車の運転免許証と自動車検査証を所持してください。

■整備

このトラクタを運転する場合，1日1回運転の前に点検をしなければなりません。又，6カ月ごとに点検整備することが必要です。なお詳しいことは，お買いあげいただきました販売店・農協におたずねください。

■車検

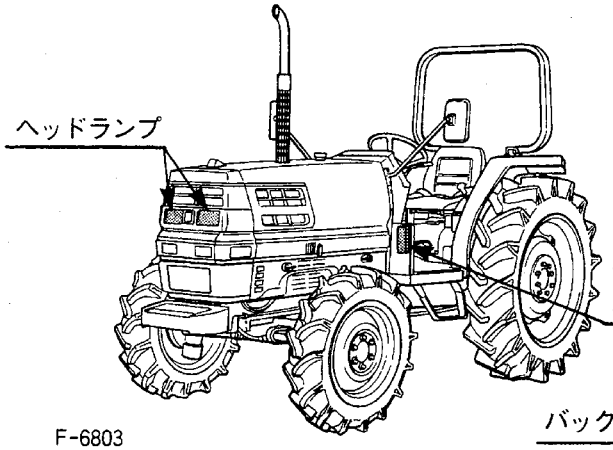
自動車検査証の有効期間は2年間です。有効期限が切れるまでに車検を受けなければなりません。

■輪距

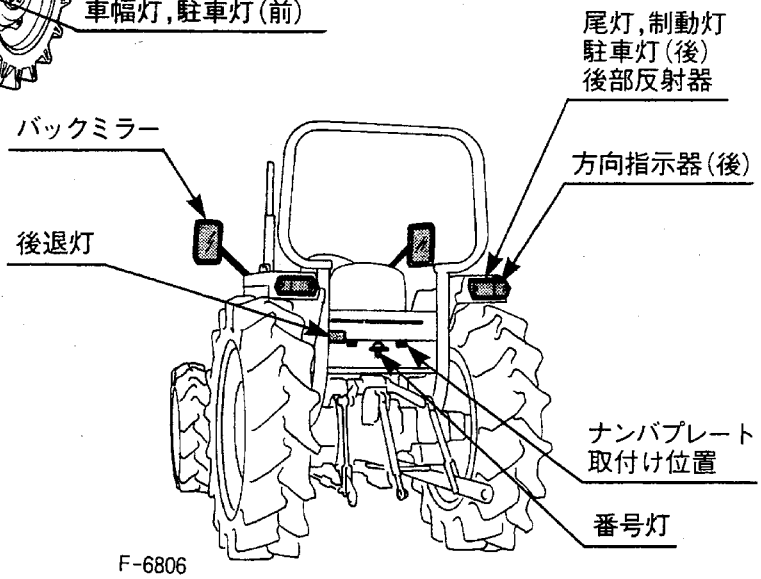
公道走行は，必ず指定の輪距で走行してください。指定輪距は下表のとおりです。この輪距どおりでない場合は「道路運送車両の保安基準」に適合しないので，道路を走行することができません。

	型　式	タイヤの呼び	輪距(mm)
前　輪	GL-40 GL-46	8-18-4PR	1205
	GL-46 GL-53	8.3-20-4PR	1225
後　輪	GL-40	12.4-28-4PR	1220
	GL-46	13.6-28-4PR	
	GL-53	12.4-32-4PR	1175

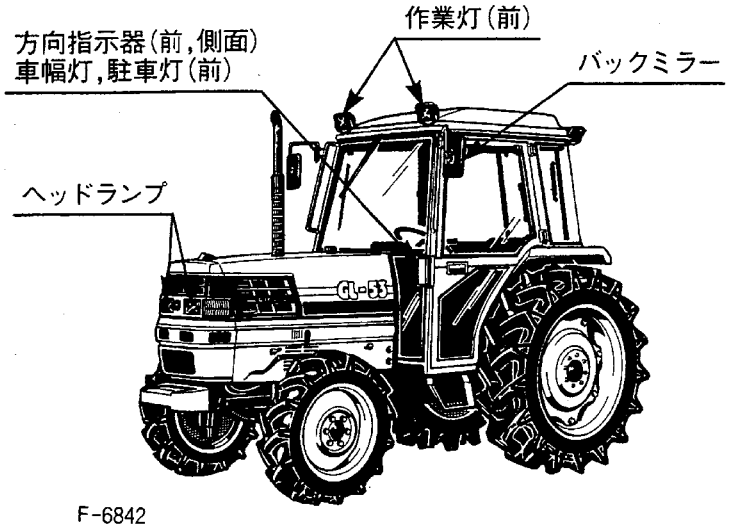
■保安装備品



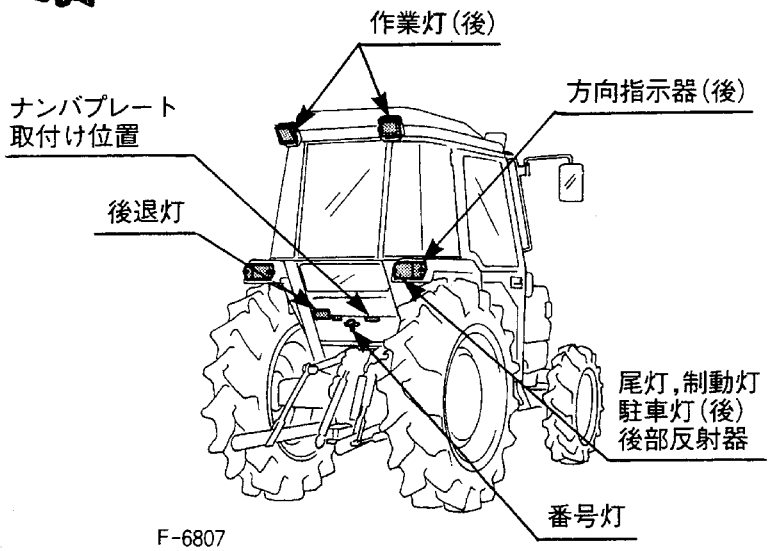
F-6803



F-6806



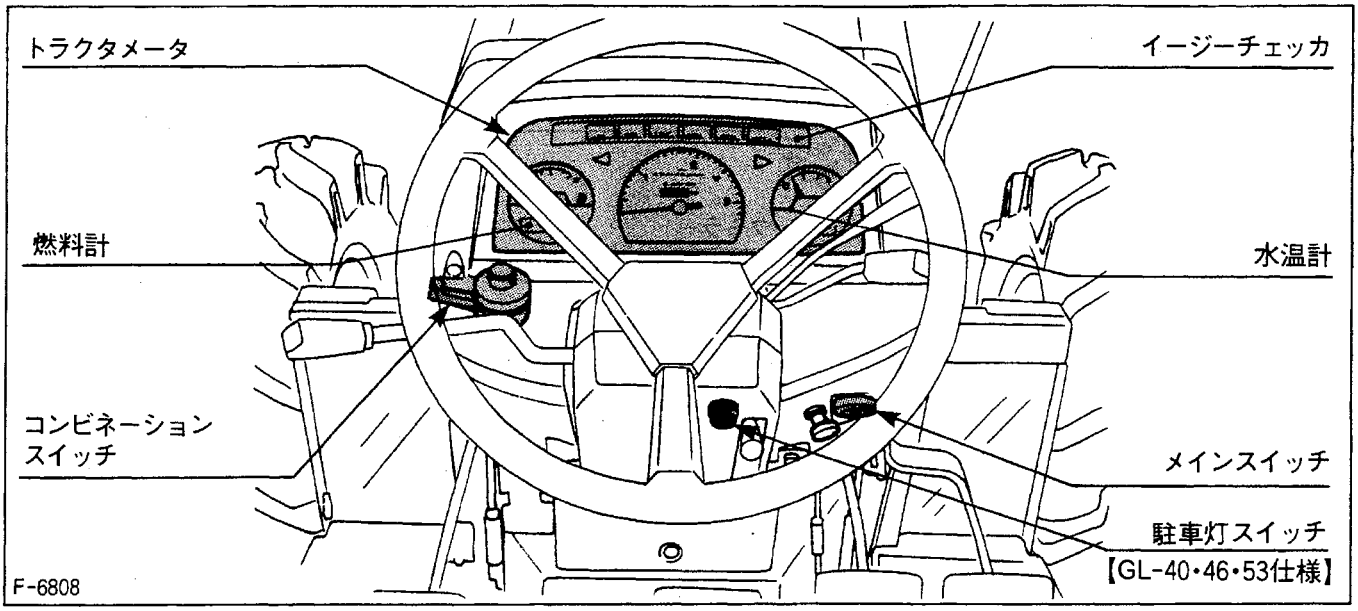
F-6842



F-6807

運転に必要な装置の取扱い

スイッチとメータの取扱い

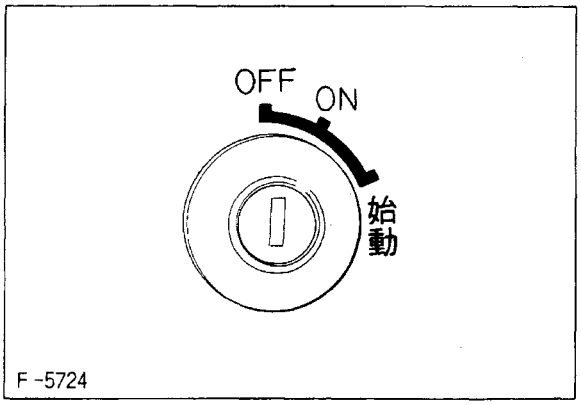


■メインスイッチ

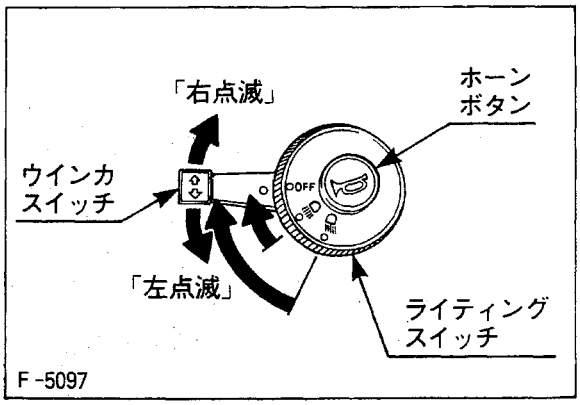
OFF ……エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

ON……エンジン回転中の位置。

始動……クラッチペダルをいっぱい踏込んで，エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に「**ON**」に戻ります。



■コンビネーションスイッチ



◆ライティングスイッチ

OFF ……ヘッドランプ消灯位置。

≡D……ヘッドランプ上向き照射位置。

≡D……ヘッドランプ下向き照射位置。

◆ウインカスイッチ

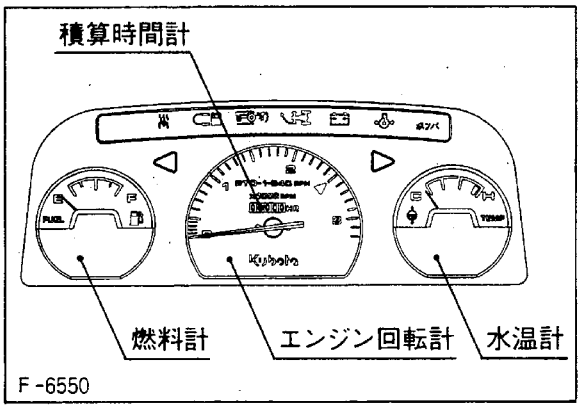
(1)スイッチを操作すると，ウインカランプ及び計器盤のパイロットランプが点滅します。

(2)右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。

◆ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

■トラクタメータ



◆積算時間計

エンジンを定格回転で使用した場合の時間を示します。

白わく内の数字を6倍すると「分」単位の時間となります。〔例〕0170(1)……170時間6分

◆エンジン回転計

1分間のエンジン回転数を示します。

◆燃料計

メインスイッチ「ON」のとき，燃料タンク内の残量を示します。

注意

- Eに近づいたら早めに燃料を補給してください。からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。【GL-35・40・43仕様】

◆水温計

メインスイッチが「ON」のとき冷却水温を示します。「C」は低温，「H」は高温です。

指針が「H」(レッドゾーン)を示すときは，オーバヒート状態ですから26ページ「◆オーバヒートしたときの処置」をご参照のうえ点検してください。

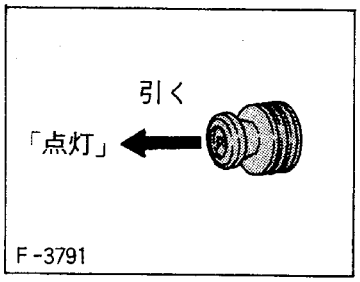
【GL-40・46・53仕様】

■駐車灯スイッチ

メインスイッチを「OFF」にしてスイッチを

引く……駐車灯が点灯します。

押す……駐車灯が消灯します。



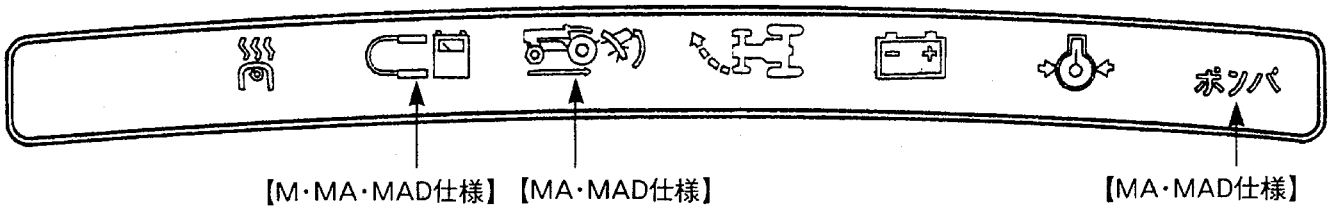
■バックランプ

シャトルレバーを「後進」の位置に入れると，バックランプが点灯します。

■ブレーキランプ

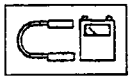
ブレーキペダル左右を連結金具で連結し，ブレーキペダルを踏むと，ブレーキランプが点灯します。

■イージーチェッカ

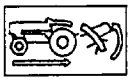


F-6550

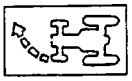
グローランプ
メインスイッチを「ON」にすると点灯し，燃焼室内の予熱が完了すると消灯します。



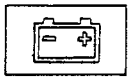
自己診断ランプ【M・MA・MAD仕様】
電子部品の診断時に使用します。
メインスイッチを「ON」にすると一回点滅します。



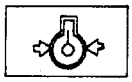
バックアップランプ【MA・MAD仕様】
コントローラのバックアップスイッチを「ON」にすると点灯します。



倍速ターンランプ(倍速ターン表示灯)
倍速ターンに変速すると点灯します。



バッテリチャージランプ
(バッテリ充電警告灯)
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
メインスイッチを「ON」にすると点灯し，始動すると消灯します。



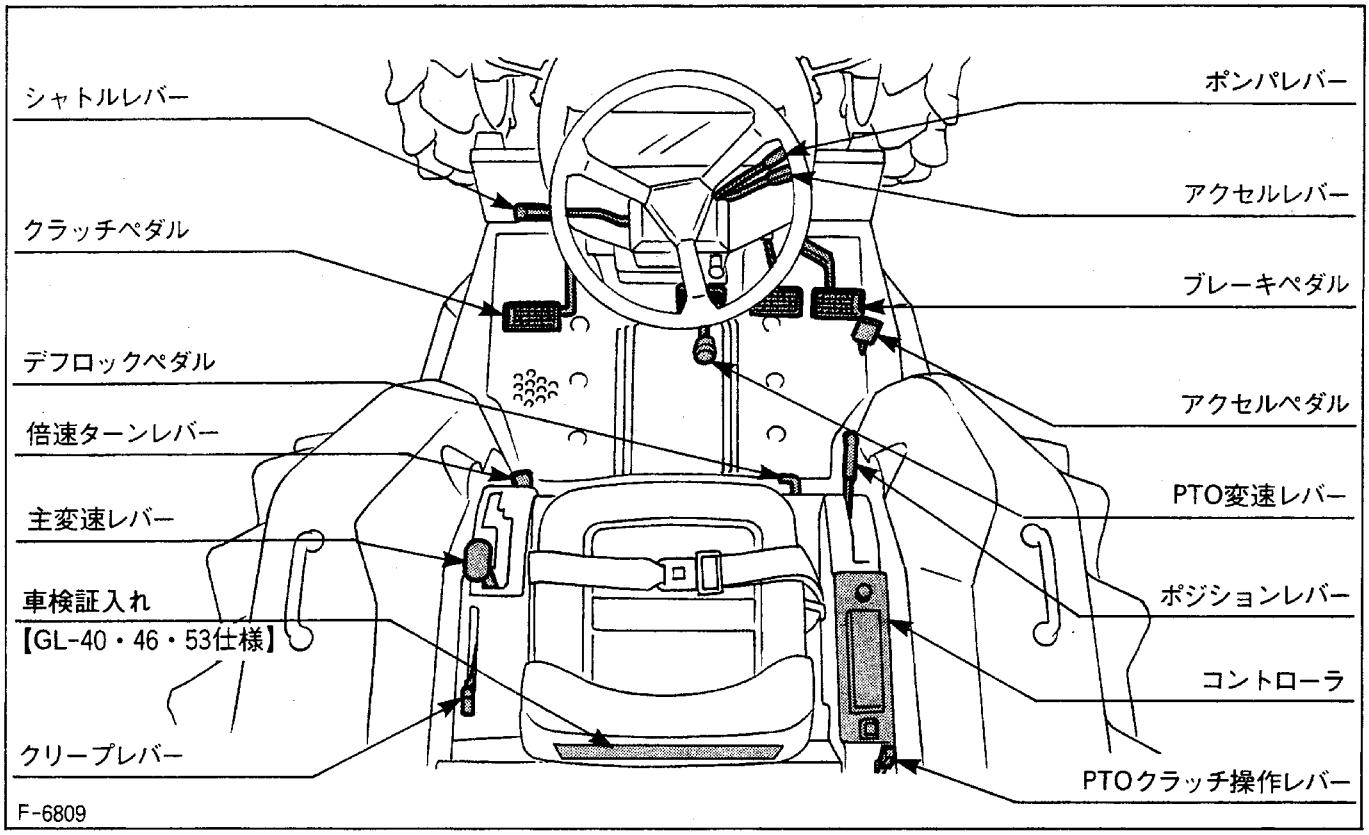
エンジンオイルランプ
(エンジンオイル油圧警告灯)
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。メインスイッチを「ON」にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

ポンパランプ【MA・MAD仕様】
ポンパレバーでリフトアームを上げると点灯します。
点滅しているときは，ポンパレバー又はポジションレバーで解除してください。
(19ページ参照)

注意

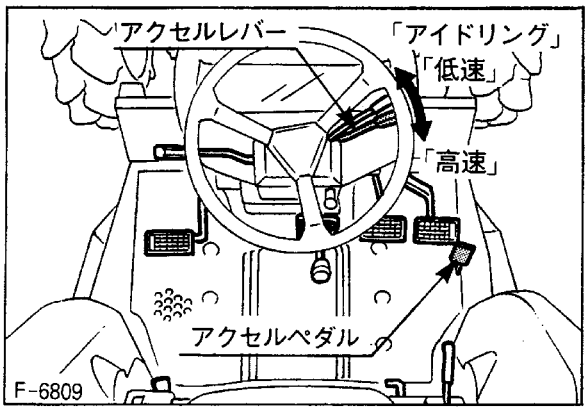
●イージーチェッカのみで日常点検は済ませず，点検は確実に行なってください。(30ページ「仕業点検」参照)

運転装置の取扱い



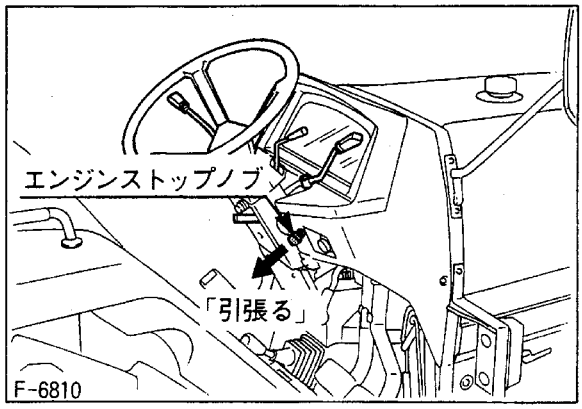
■アクセルレバーとアクセルペダル

アクセルレバー……主に農作業時に使用する。
アクセルペダル……主に道路走行時に使用する。
アクセルペダルは，アクセルレバーと連動しており，
ペダルを踏込む……エンジン回転が上がる。
ペダルから足を離す……アイドリング状態。



■エンジンストップノブ

メインスイッチを「OFF」にすると，エンジンが自動的に「停止」します。
万一停止しないときは，エンジンストップノブをいっぱい「引張る」と，エンジンが「停止」します。



注意

- エンジンストップノブは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブを引いた状態では，エンジンは始動しません。

■ブレーキペダル

安全ポイント

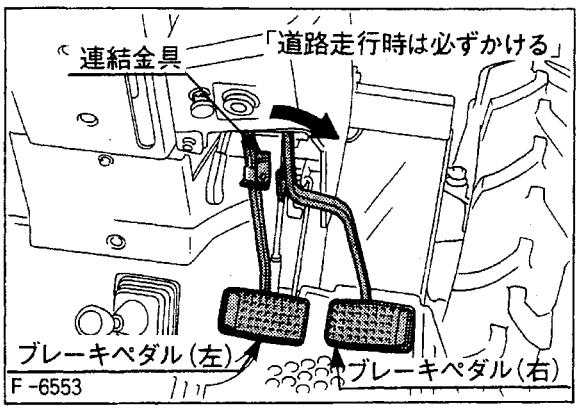
●道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。

→ 納入品安全説明書14ページ参照

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。

連結金具をかけた状態……道路走行時。

連結金具を外した状態……農作業時。



■クラッチペダル

クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。

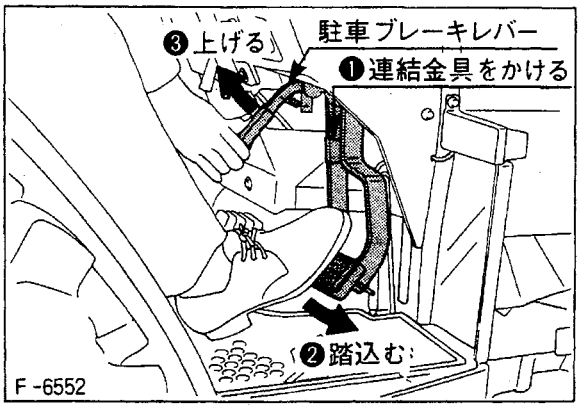
ペダルを踏込む……クラッチが切れる。

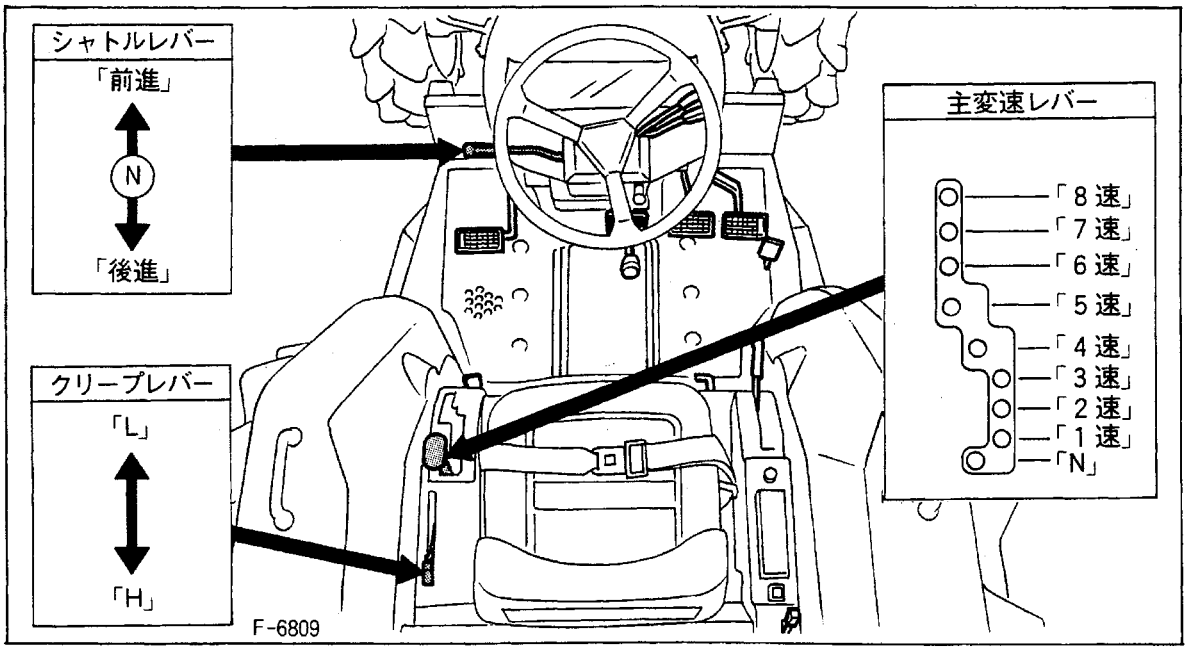
ペダルから足を離す……クラッチがつながる。

■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを上げると駐車ブレーキがかかります。

外すときは，ペダルを踏込めば外れます。





3本のレバー操作を組合せることにより前進16段，後進16段の車速が得られます。

(1)主変速レバー・シャトルレバー操作は，発進及び走行中にクラッチペダルを踏まずに(ノンクラッチ)，変速及び前後進することができます。

(2)クリープレバー変速操作はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行なってください。
走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

■主変速レバー

レバー1本で8段の車速が選択できます。
(25ページ「発進・走行」参照)

■クリープレバー

(1)「L」位置で低速，「H」位置で高速が得られます。

(2)超低速度(クリープ速度)は，使用と取扱いを誤ると故障の原因になります。
次のことに注意の上ご使用ください。

(1)使用できる作業

- ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
- ロータリ耕うんで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
- プランタによる移植作業。
- 農業用トレンチャによる作業(農業用に限る)。
- 車への積み・降ろし。

(2)使用できない作業(故障の原因になります)

- 湿田での沈没状態からの脱出作業。
- けん引・トレーラ作業。
- フロントローダ作業。
- フロントブレード作業(除雪作業)。
- 土木作業。
- ほ場への出入り。

(3)超低速度(クリープ速度)を使用するときは，必ず次のことを守ってください。

- 変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
- 発進は，駐車ブレーキを必ず外してから行なってください。
- 停止は，クラッチを必ず切ってからブレーキをかけてください。

(超低速度(クリープ速度)では車軸の回転力が大変強くなるので，ブレーキペダルだけを強く踏んでもブレーキはききません。故障の原因になります。)

注意

(1)クリープレバー操作時，レバー操作が重くなるときがあります。そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度クリープレバーを操作してください。

(2)また，クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは，いったん主変速レバー又はシャトルレバーを「N」(中立)にしてから操作してください。

■シャトルレバー

レバーを前に押して「前進」，手前(後)に引いて「後進」です。

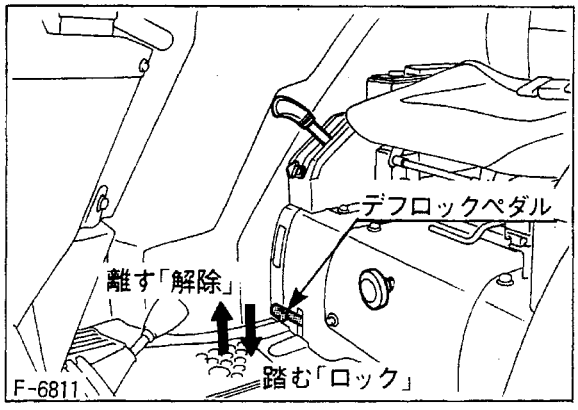
◆シャトルレバーの使い方

(1)シャトルレバー操作をする前にエンジン回転を下げてください。

(2)「前進」↔「後進」のシフト操作は，いったん「中立」位置にして停止してから操作してください。

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。
ペダルを踏込む……ロックされる。
ペダルから足を離す……自動的に外れる。



◆デフロックの使い方

安全ポイント

- デフロックを入れたままで旋回すると非常に危険です。旋回の前に必ず外してください。

→ 納入品安全説明書12ページ参照

▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

デフロックは，下記のような場合には非常に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので，注意してください。

(1)農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。

(2)農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。

(3)プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

注意

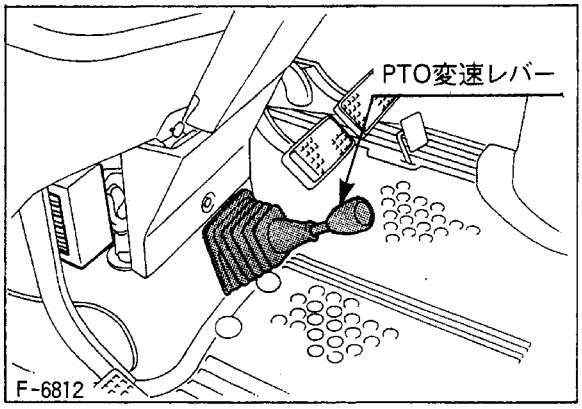
(1)デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。

(2)抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

(3)使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

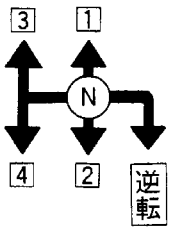
■PTO変速レバー

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度を，正転4段階，逆転1段階に変速できます。

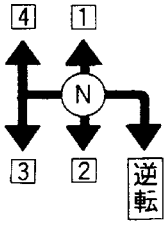


変速シフトパターン

【GL-35・43仕様】



【GL-40・46・53仕様】



◆PTO「逆転」の使い方

(1)使用できる作業機

- インプルメント一覧表(56ページ参照)のロータリに限ります。

注意

- **インプルメント一覧表に記載以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因になります。**

(2)使用できる作業

- 土寄せ作業
- 草やワラなどの巻きつきをほぐすとき

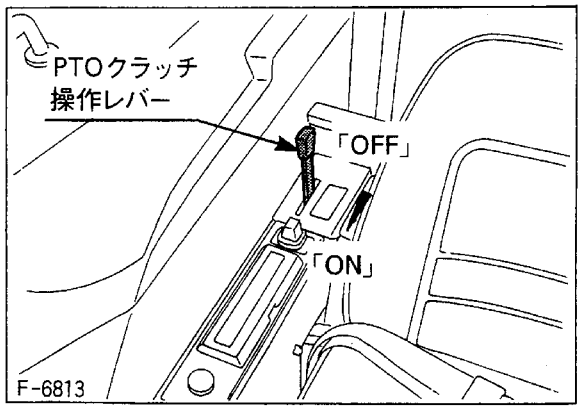
(3)使用できない作業

- 未耕地での耕うん作業
- ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

■PTOクラッチ操作レバー【N仕様】

走行に関係なくPTOクラッチ操作レバーを「ON」にすると，PTOクラッチが接続されます。

また，クラッチペダルの操作でPTOの断続もできます。



注意

(1)操作レバーを急激に操作するとクラッチが急接続され，作業機や油圧クラッチなどが損傷する恐れがあります。必ずゆっくり操作してください。

(2)半クラッチ状態で操作レバーを保持しないでください。クラッチ損傷の原因となり，またステアリングハンドルが重くなります。

(3)PTO変速レバーを操作するときは，クラッチペダルを踏んでください。

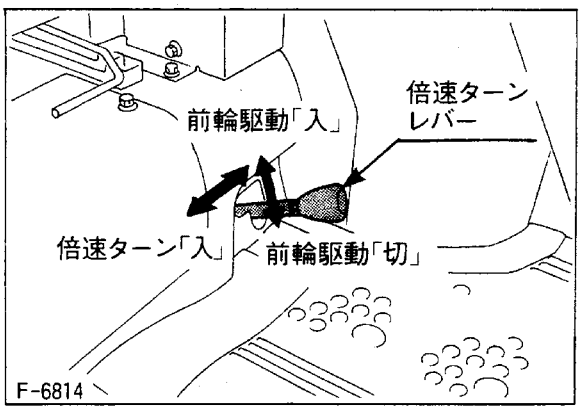
■倍速ターンレバー

前輪駆動の断続に使用するレバーで，クラッチペダルを踏込み操作します。

倍速ターン「入」……倍速ターンが入る。

前輪駆動「入」…… 4 輪が駆動される。

前輪駆動「切」……前輪駆動が切れる。



◆前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に使用してください。

(1)傾斜地，湿田，トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。

(2)砂地で作業をする場合。

(3)固い農場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

◆倍速ターンの使い方

安全ポイント

●倍速ターンに入れたままでほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に倍速ターンレバーを前輪駆動「入」又は前輪駆動「切」に切換えてください。

▶もし怠ると……

傷害事故を引起すことがあります。

倍速ターンは，畑，水田などのロータリ作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので，注意してください。

注意

(1)倍速ターンの「入」「切」は，前輪タイヤを直進の状態にしてから行なってください。

(2)プラウなどの速度の速い作業には，使用しないでください。

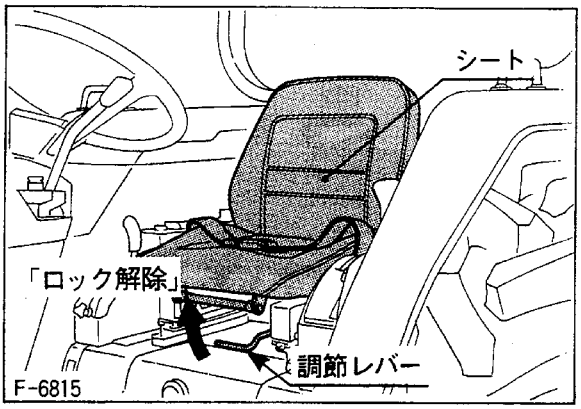
(3)フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

■シート

(1)シート下の調節レバーのロックを「解除」すると，前後 4 段階に調節できます。

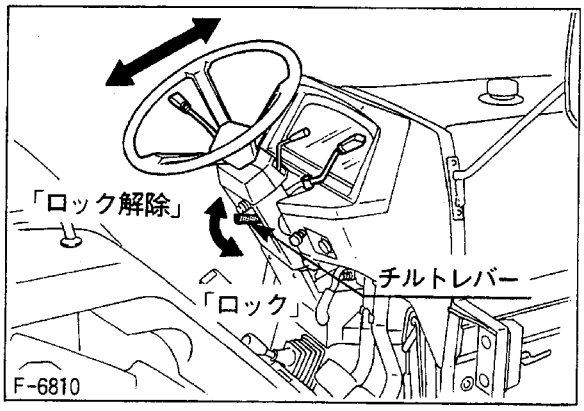
●取付台の穴位置を変えると，さらに前に調節できます。

(2)雨のときはシートを前に倒しておくと，ぬれる心配がありません。



■チルトハンドル

チルトレバーでロックを「解除」すれば，ステアリングハンドルが任意の位置に調節できます。



注意

●調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。

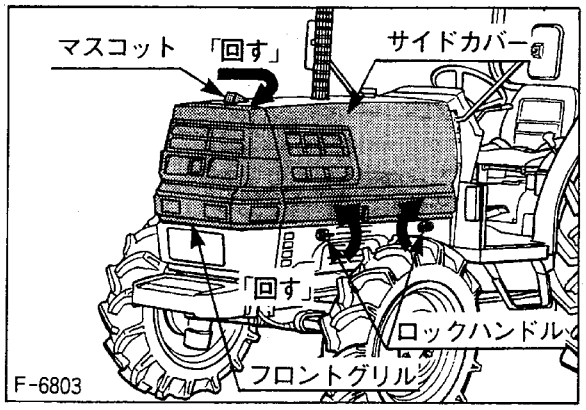
■フロントグリル及びサイドカバーの外し方

❶フロントグリルはマスコットを回すと外れます。

注意

●フロントグリルを外す場合，ヘッドライトの配線コネクタを外してください。

❷サイドカバーはロックハンドルを回すと外れます。



注意

●ロックハンドルとカバーで手をはさまないように注意してください。

■けん引ヒッチ(オプション)

安全ポイント

(1)けん引作業をするときは，けん引ヒッチを必ず使用し，トップリンク取付け台で引張らないようにしてください。

▶もし怠ると……

転倒による傷害事故を引起す恐れがあります。

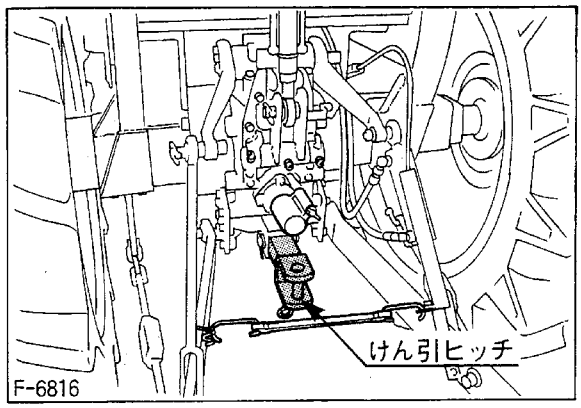
(2)3点リンクに取付け，PTO軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント(ロータリ，ブロードキャスタなど)を使用するときは，けん引ヒッチを下向きにして前へ押込むか，外してください。

▶もし怠ると……

ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し，災害を起す危険があります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。

他の物をけん引する場合は，必ず販売店・農協にご相談ください。



注意

●けん引作業をする場合は，けん引ヒッチを引き出してご使用ください。

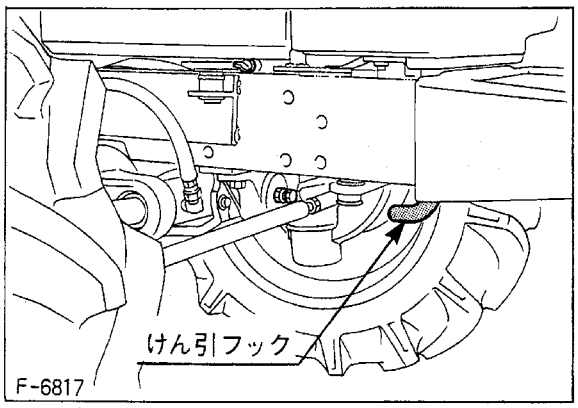
■けん引フック

安全ポイント

●けん引フックは，横方向へは絶対に引かないようにしてください。

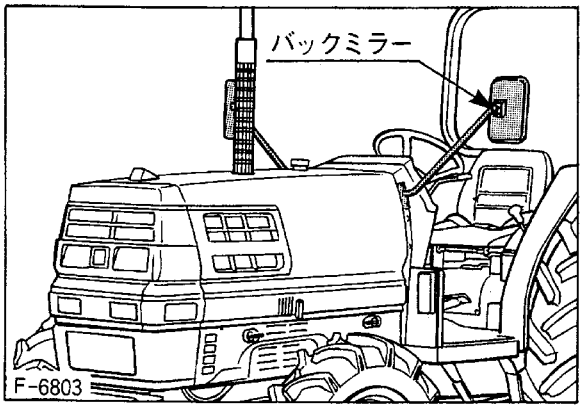
▶もし怠ると……

外れやすく危険なうえ，フレームが曲る恐れがあります。

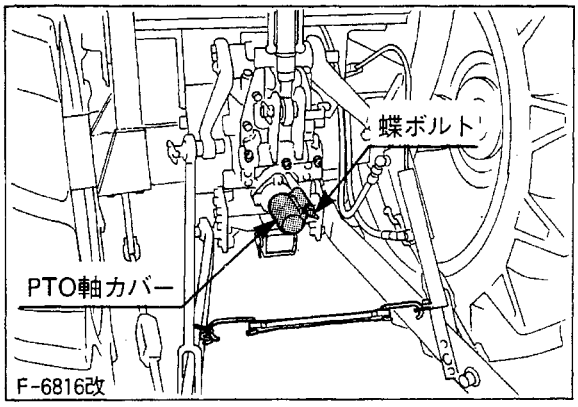


■バックミラー

後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。



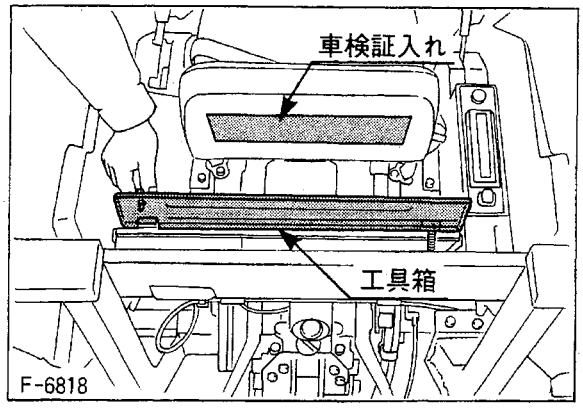
■PTO軸カバー



安全ポイント

- PTO軸を使わないときは，PTO軸にグリースを塗布した後，カバーを取付けておいてください。
  ▶もし怠ると……
  巻込まれによる傷害事故を引起す恐れがあります。

■工具箱



注意

- 公道を走行する場合，必ず自動車検査証を所持してください。【GL-40・46・53仕様】

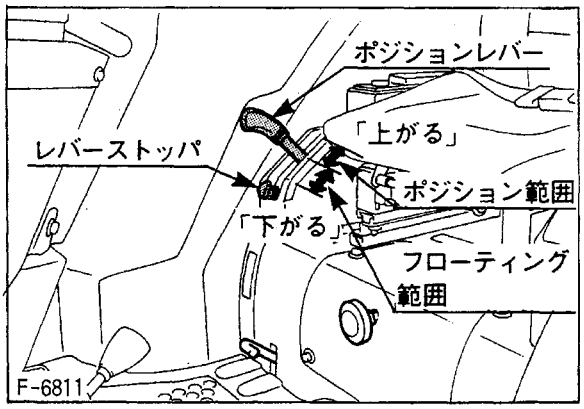
作業機昇降装置の取扱い

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■ポジションレバー

ポジションレバーで作業機を自由に上下させる装置で，
レバーを後方に引く……作業機が上昇する。
レバーを前方に倒す……作業機が下降する。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。MA・MAD仕様ではオート耕うん作業ができます。



安全ポイント

(1)メインスイッチ「OFF」では，レバーを作動させても作業機は下がりません。
(2)エンジン始動後，レバーを元の位置(エンジン停止時のレバー位置)へ操作するかポンパレバーを操作しないと作業機の昇降はできません。【MA・MAD仕様】

■レバーストッパの使い方

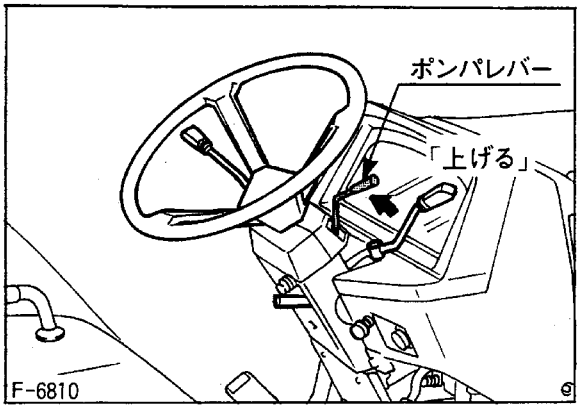
❶ポジションレバーで,希望する作業位置を決めます。
❷その位置にレバーストッパを固定します。
❸その後は，ポジションレバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

■ポンパレバー【MA・MAD仕様】

レバー操作で作業機を自由に上下させる装置で，ほ場内での旋回操作が便利になります。
レバー上げる(ランプ点灯)……作業機上昇
再度レバーを上げる(ランプ消灯)……作業機下降
ポンパレバーで作業機上昇後，ポジションレバーを最上位置にすると，ポンパ制御が解除され(ランプ消灯)，ポジション制御になります。

◆ポンパの上手な使い方

レバーを解除したときの下降位置はポジションレバーで設定した位置になります。
例えばドライブハローなど，作業機の位置を固定して昇降させる場合，ポジションレバー位置をセットしたまま，ポンパレバーにより昇降させることができます。【耕深位置制御】

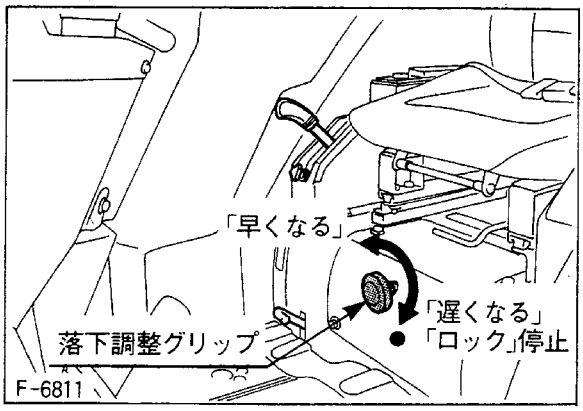


注意

(1)ポンパランプが点滅している場合，ポジションレバー又はポンパレバーを操作し，ポンパランプの「点滅を解除」してから使用してください。
(2)危険防止のため，ポンパレバーの使用は，ほ場内作業のみにしてください。ほ場外(移動など)ではポジションレバーを使用してください。
(3)ポンパレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。
(4)新しい作業機を装着したときは，ポンパレバーではなく，ポジションレバーを使って作業機を上げて，作業機がフロアシートに当らないことを確認してください。

■作業機落下速度の調整

落下調整グリップを回すことにより調整できます。



注意

(1)MA・MAD仕様の場合，落下速度が速すぎるとスムーズに落下しない場合がありますので，スムーズに落下するよう落下スピードを調整してください。
(2)油圧をロックするときは,軽く締込み,ネジをいっぱいに締込まないようにしてください。

安全ポイント

●ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下調整グリップを締込んで，作業機の落下を防止してください。
グリップを締込んだ後，ポジションレバーを「下がる」の方向に動かして，作業機が落下しないか必ず確認してください。
→ 納入品安全説明書12ページ参照

■油圧ロックの取扱い

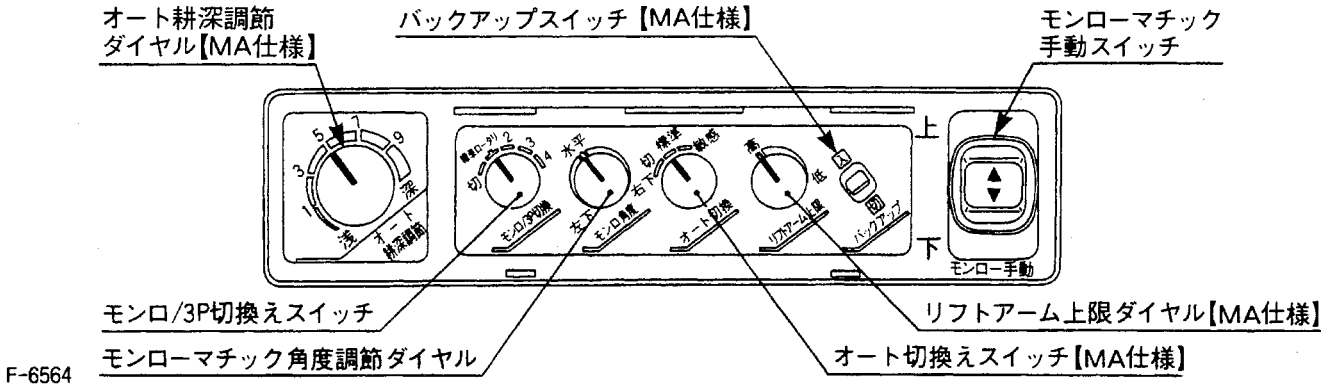
(1)トラクタの格納は，作業機を降ろした状態にして保管してください。
作業機を上げた状態で長時間保管しますと，油圧ロックを行なっていても下降することがあります。
(2)作業機を上げた状態で保管する場合は，次の要領で行なってください。
❶エンジンをかけた状態で落下調整グリップを油圧がロックする側に回して，軽く締込んでください。
❷ポジションレバーを下端まで,下げてください。
(このとき，作業機が下がらないことを確認してください。)
❸エンジンを停止してください。

モンローマチック【M仕様】・モンローマチックオート【MA仕様】・モンローマチックオートドラフト【MAD仕様】の取扱い

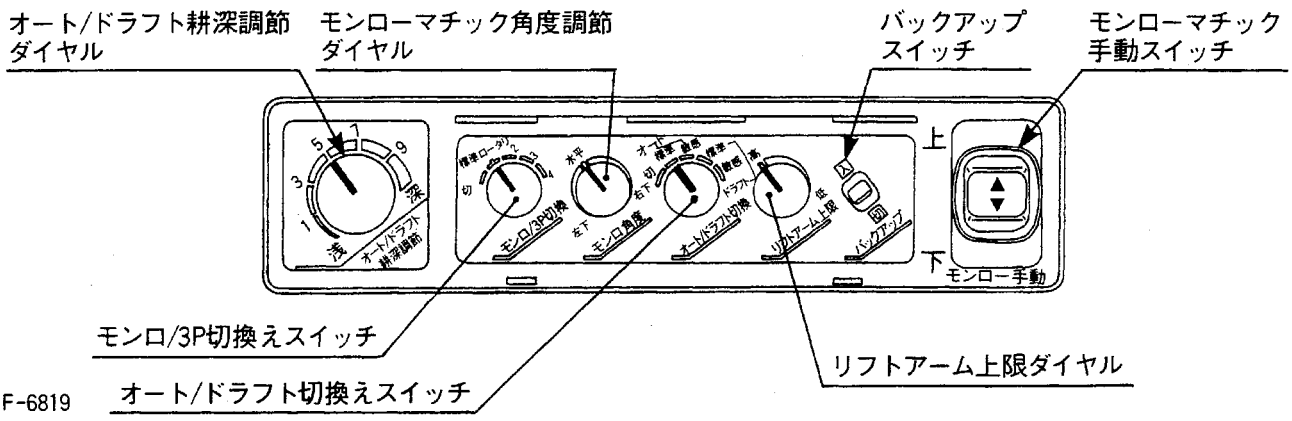
モンローマチック及びモンローマチックオート／ドラフトは，マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。
正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

■スイッチの取扱い

【M・MA仕様】



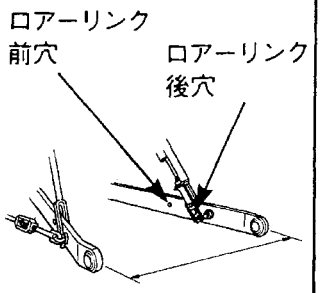
【MAD仕様】



◆モンロ／３Ｐ切換えスイッチ

標準ロータリ，2，3，4の切換えは，作業機によって定まる３点リンクの取付け状態(ロアーリンク幅及びロアーリンク穴)に応じて選択してください。

モンローマチック	３P切換えスイッチ	ロアーリンク幅	ロアーリンク穴位置	作　業　機　例
自動		広	後(中)	Aフレーム付ロータリ (特殊３P仕様) Aフレーム付代かきハロー
		広	前	プラウ
		狭	中(後)	Aフレーム無しロータリ
		狭	前	代かきハロー(ロータリ) (標準３P仕様)
手動		モンローマチックの自動制御が解除され，「手動」になります。		



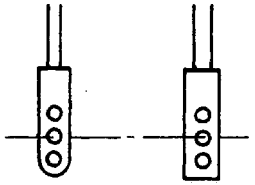
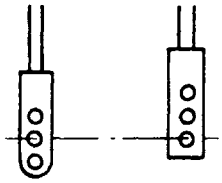
ロアーリンクの幅
「広」…718mm
(JIS)
「狭」…590mm
(参考)

F-6820

注意

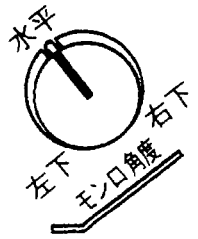
●ロアーリンクにリフトロッド(リフトシリンダ)との接合穴が３コありますので，後の２コを使用する場合ロアーリンク穴位置「後」として切換えスイッチを選択してください。

リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。

良い例	悪い例
リフトロッド　リフトシリンダ	リフトロッド　リフトシリンダ
	
同じ位置の穴	異なる位置の穴

◆モンローマチック角度調節ダイヤル

モンロ／３P切換えスイッチが「切」以外の場合，作業機の姿勢を調節するときに使用します。



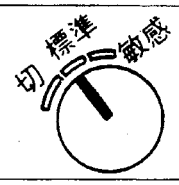
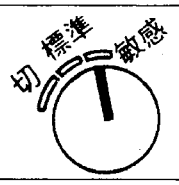
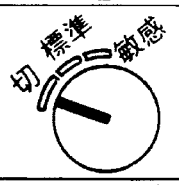
(1)ダイヤルを[水平]位置にしますと，作業機は**水平**に保持されます。

(2)ダイヤルを[左下]方向に回すと，作業機が**左下り**に保持されます。

(3)ダイヤルを[右下]方向に回すと，作業機が**右下り**に保持されます。

なお，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。

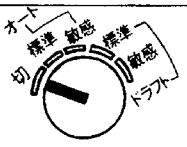
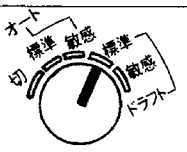
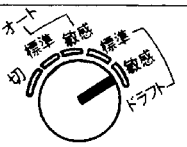
◆オート切換えスイッチ【MA仕様】

	オート切換えスイッチ	作　業　例
オート自動		浅起しから深起しまで，一般的な作業で使用します。
		湿田での浅起し，代かき作業，その他仕上がりに応じて使用します。
オート切		オートの「自動」制御が解除されます。

注意

●畝立て作業などロータリカバー２を上げて作業するときは，「切」にしてください。

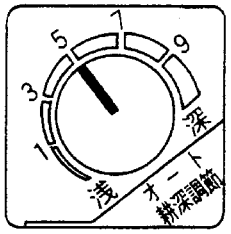
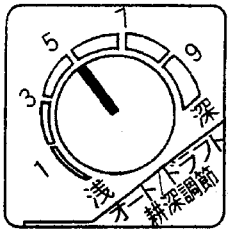
◆オート/ドラフト切換えスイッチ【MAD仕様】

	オート／ドラフト切換えスイッチ	作　業　例
オート自動		浅起しから深起しまで，一般的な作業で使用します。
		湿田での浅起し，代かき作業，その他仕上がりに応じて使用します。
オート切		オートの「自動」制御が解除されます。
ドラフト自動		かたいほ場。
		やわらかいほ場。
ドラフト切		ドラフトの「自動」制御が解除されます。

注意

●畝立て作業などロータリカバー２を上げて作業するときは，「切」にしてください。

◆オート耕深調節ダイヤル【MA仕様】
オート/ドラフト耕深調節ダイヤル【MAD仕様】

MA仕様	MAD仕様
	

●オート耕深調節ダイヤルとして使用する場合

オート切換えスイッチが，「標準」・「敏感」の場合，浅起しから深起しまで希望の耕深になるよう，このダイヤルで設定してください。

注意

(1)「浅」から「１」付近までは作業機を吊り上げる制御となります。深田での代かき作業に利用してください。

(2)ほ場内で，部分的にタイヤの沈下量が大きく変わり，耕深が深くなる場合は，ダイヤルで調節してください。

●ドラフト耕深調節ダイヤルとして使用する場合

プラウなどでの耕深を調節するときに使用します。

(1)ダイヤルを「浅い」方向へ回すと，プラウの耕深が浅く保持されます。

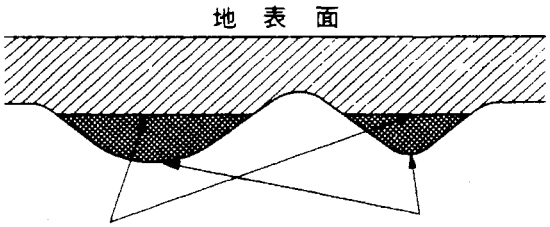
(2)ダイヤルを「深い」方向へ回すと，プラウの耕深が深く保持されます。

注意

●ダイヤルを「深い」方向へいっぱい回すと，フローティング範囲になります。また「浅い」方向へいっぱい回すと作業機が上端まで上昇します。

◆ミックスコントロール

ポジションコントロールで作業機の降下位置を規制し，ドラフトコントロールでけん引抵抗に応じた制御をするという２つのコントロールをします。軟弱な土質でのプラウ・サブソイラなどの作業に適しています。



◆リフトアーム上限ダイヤル【MA･MAD仕様】

リフトアームの上限位置を変えるときに使用します。

(1)ダイヤルを「高」にすると，リフトアームの上昇高さが高くなります。

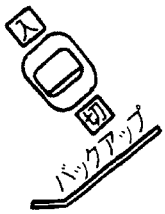
(2)ダイヤルを「低」方向に回すと，リフトアームの上昇高さが低くなります。

注意

- **リフトアーム上限ダイヤルにより，ポンパレバー及びポジションレバーでの上げ位置を任意の高さに規制できます。**

◆バックアップスイッチ【MA・MAD仕様】

シャトルレバーをバックに入れると，作業機が上昇する装置です。

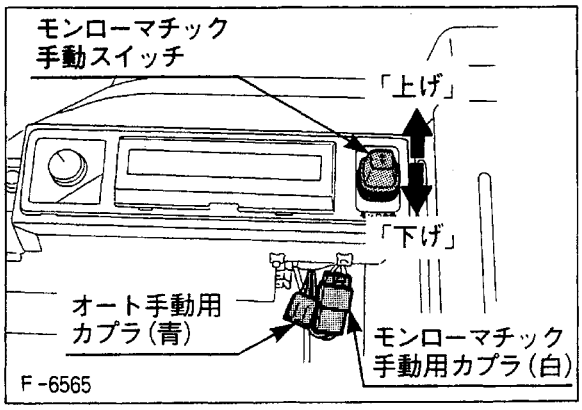


(1)作業機を下げたままの「うっかりバック」から作業機を守ります。

(2)バックアップで上昇した作業機を下げるときは，ポジションレバー又はポンパレバーを操作してください。

■モンローマチック手動スイッチ

モンロ／３P切換えスイッチが「切」の場合，作業機を左右に傾斜させるときに使用します。



(1)「上げ」方向へレバーを押している間，作業機の右側が上がります。

(2)「下げ」方向へレバーを押している間，作業機の右側が下がります。

注意

- **スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。**

◆モンローマチック「入」(自動)では次のような作業に効果があります。

（トラクタ本体の傾きにかかわらず，作業機の傾斜が一定になります。）

(1)モンローマチック角度調節ダイヤルが 水平 位置の場合

- 水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん
- 整地板・代かきロータリなどによる均平作業
- 畑での畝立て，畝崩し作業その他

(2)モンローマチック角度調節ダイヤルが 水平 以外の場合

- 広幅畝立て，その他

◆モンローマチック「切」(手動)では次のような作業に効果があります。

- メロンなどの高畝作り，その他
- 作業機の着脱

注意

(1)モンローマチックが不要の場合(フロントローダ作業などの場合)には，「切」で作業してください。

(2)「手動」で作業機を傾斜させるとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。

(3)チェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチック作動時に３点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

◆モンローマチック手動スイッチをオート手動スイッチとして使用する場合

【MA・MAD仕様】

マイコンユニットが故障し，作業機を手動で昇降させる必要のあるときのみ，モンローマチック手動スイッチをオート手動スイッチとして使用してください。

オート手動スイッチとして使用する場合は，モンローマチック手動用のカプラを外してオート手動用のカプラにつけ換えてください。

（前頁のF-6565図参照）

安全ポイント

(1)モンローマチック手動スイッチは，緊急時以外には絶対にオート手動スイッチとして使用しないでください。

オート手動スイッチとして使用した場合，速やかにモンローマチック手動スイッチに戻してください。

(2)オート手動スイッチをつないだままでは，ポンパレバー及びポジションレバーは作動しません。

▶もし怠ると……

オート手動スイッチの誤操作によりロータリが落下し，傷害事故を引起すことがあります。

■ポンパレバーについて

【MA・MAD仕様】

レバーを軽く上に上げると，ポンパランプが点灯し作業機が上昇します。この状態で再度上げると，ポンパランプが消灯し作業機が下降します。

注意

(1)スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

(2)走行中は必ずポジションレバーを「上」げにしてください。

■ポンパランプについて

【MA・MAD仕様】

ポジションレバー位置及びポンパレバーの状態とロアーリンク位置が異なる状態でエンジンを始動した場合，ポンパランプが点滅するようになっています。このようなときは，ポジションレバー又はポンパレバーを操作し，ポンパランプの点滅を解除して使用してください。

■作業機の取扱い

◆リフトシリンダを取付け，取外しする場合

お買いあげいただいた販売店・農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。

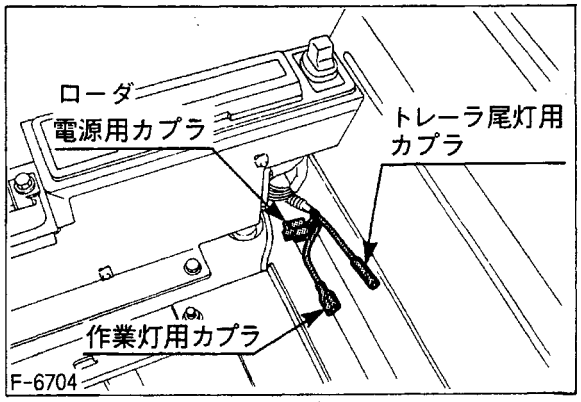
●取外す場合は，下記部品が必要となります。

（別途購入品）

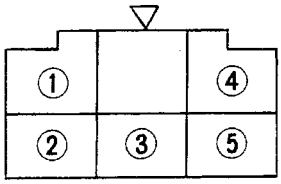
品　番	品　名	備　考
99093－9800－1	キャップアッシ	キャップ及びプラグを含む

■作業灯用カプラ，トレーラ尾灯用カプラ，ローダ電源用カプラ

作業灯，トレーラ尾灯，ローダ電源を使用するときは，シート後部に各々のカプラがあります。

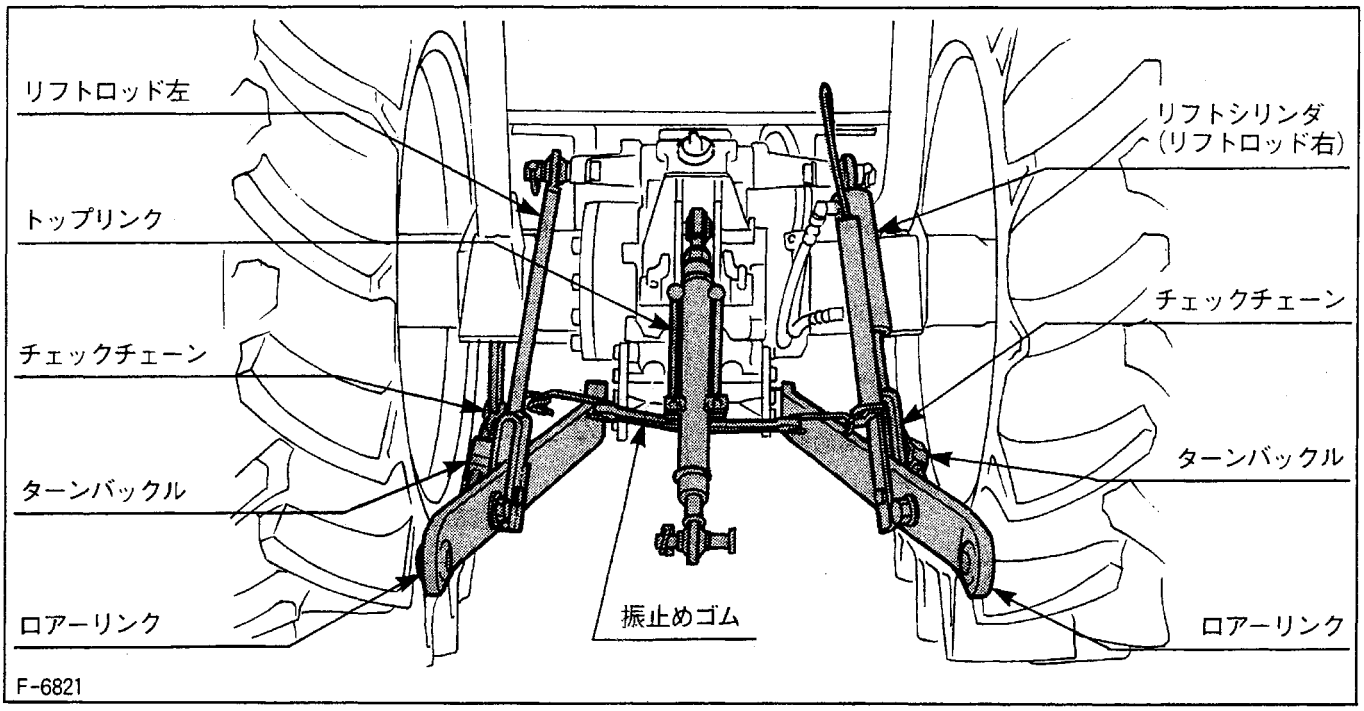


◆トレーラカプラ電源



電源＼機種	GL40・46・53	GL35・43
①フラッシャ左(緑青)	○	○
②フラッシャ右(緑赤)	○	○
③テールランプ(緑白)	○	○
④ブレーキランプ(緑)	○	－
⑤バックランプ(緑黒)	○	－

三点リンク装置の取扱い(一般作業機用)

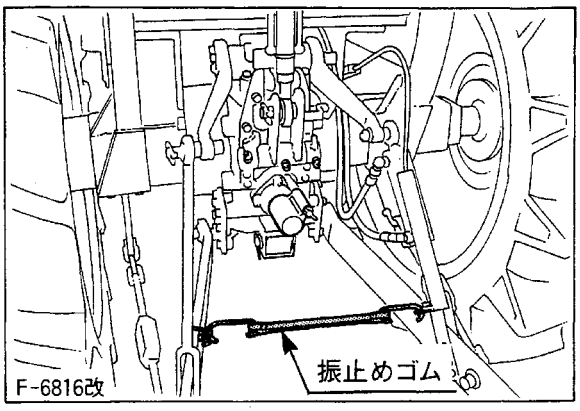


3点リンクは，JIS 1形です。

	GL-35仕様	GL-40仕様	GL-43仕様	GL-46仕様	GL-53仕様
後輪輪距	1140mm	1220mm	1140mm	1220mm	1175mm

■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振れ止めをしておいてください。



■トップリンクの調整

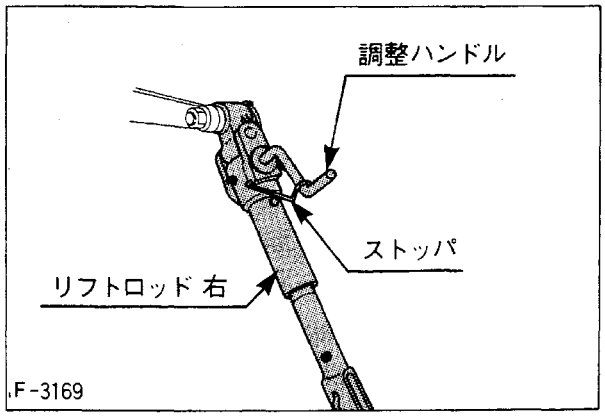
(1)伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。

(2)トップリンク取付け位置は，作業機の種類によって違います。

■リフトロッドの調整 【M・MA・MAD仕様以外】

(1)右側の調整ハンドルで，作業機の水平を合せてください。

(2)調整後は，ハンドルをストッパで必ず固定してください。そうしないと，Aフレーム(クボタロータリ取扱説明書参照)がハンドルにあたることがあります。



■ロアーリンク取付け穴の選択

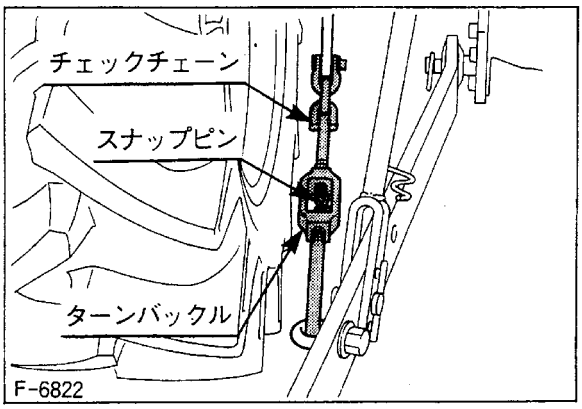
(1)一般作業機を使うときは，ロアーリンクの「前穴」を使ってください。

(2)特殊３点リンクロータリを使うときは，ロアーリンクの「後穴」を使ってください。

■チェックチェーンの調整

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。

作　業　機	チェーンの張り具合
プラウ，ハロー， サブソイラ， ディガー，	ゆるめる （作業機が横方向に ５～６cm動く程度）
ロータリ，モアー， ヘイレーキ，テッダ， リッジャ，カルチベータ，	軽く締める



輪距の調整

■前輪

前輪の輪距は変更できません。

■後輪

安全ポイント

●けん引作業・傾斜地での作業などの場合は，輪距を広くして使用してください。
最小輪距では，左右のバランスが不安定になります。
▶もし怠ると……
転倒による傷害事故を起すことがあります。

注意

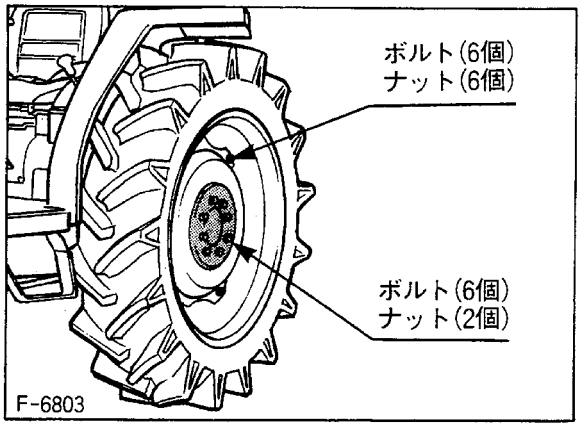
(1)タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。

(2)ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。

(3)後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。

❶ボルト・ナットをゆるめた後，ジャッキで左右の後輪を浮かします。

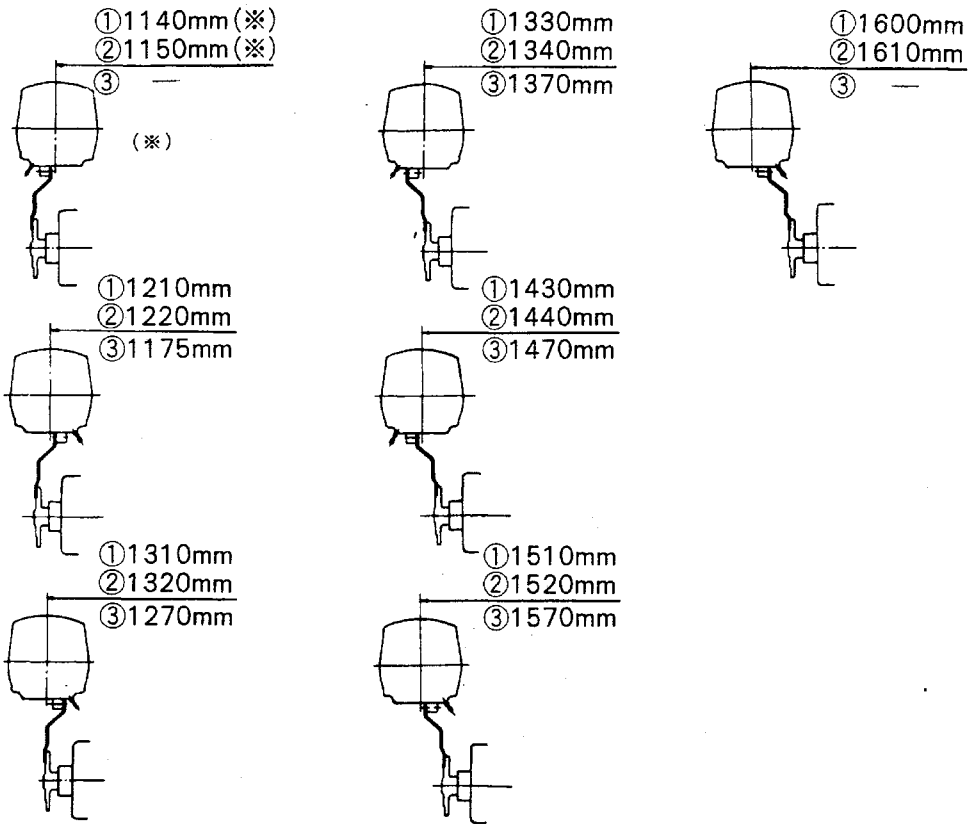
❷ボルト・ナットを外し，左右のタイヤを入換えます。



後輪輪距は，ディスクの組替えを合せ５～７段階に調節できます。

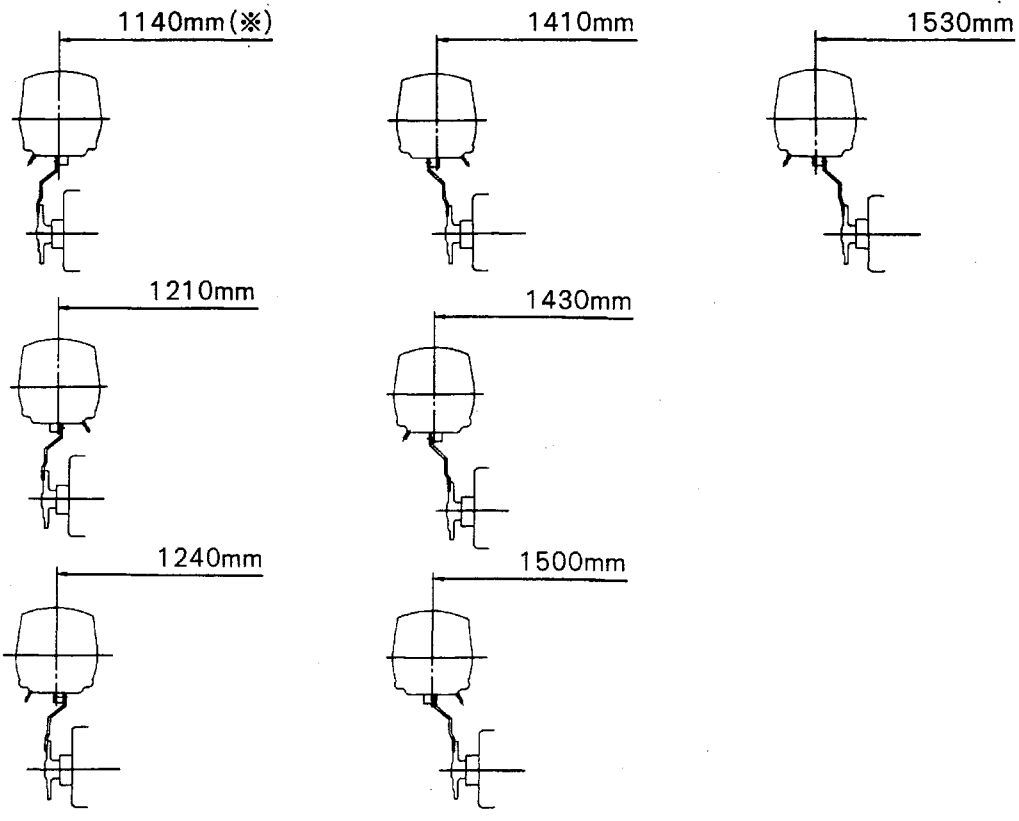
● GL-35・40・46・53仕様

①GL-35仕様
②GL-40・46仕様
③GL-53仕様



F-4592

● GL-43仕様



F-4593

注意 ●最小輪距(※印)でけん引作業・傾斜地での作業をする場合は，転倒に十分注意してください。

上手な運転のしかた

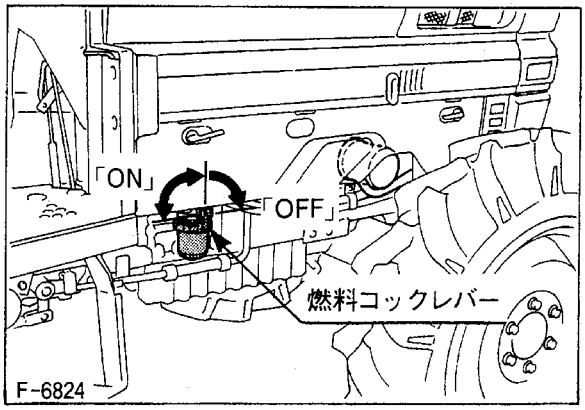
エンジン始動のしかた

安全ポイント

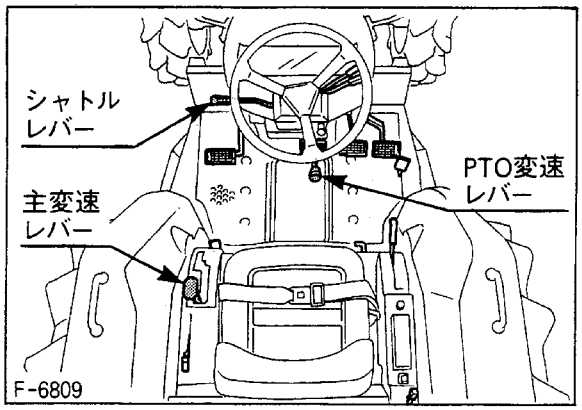
(1)必ず座席に座って始動してください。
エンジンの始動と同時にトラクタが動きだし，また，正常な運転ができなくて危険です。

(2)閉めきった室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
排気ガスは，人体に有害です。
▶換気が不十分であると……
排気ガス臭のため，気分が悪くなったり，目が痛くなったりすることがあります。

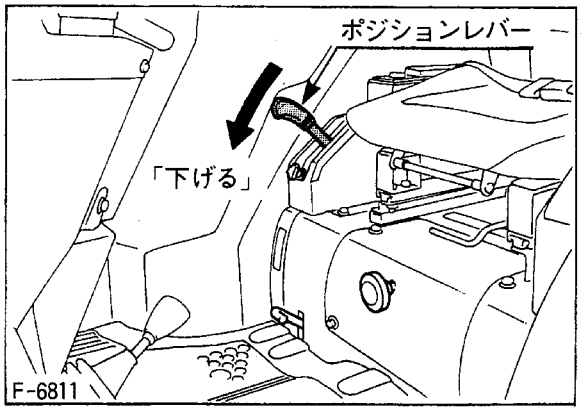
❶燃料コックを「ON」にします。



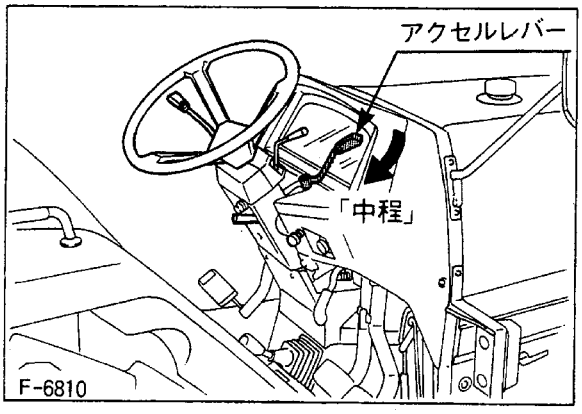
❷主変速レバー，シャトルレバー及びPTO変速レバーを「中立」にします。



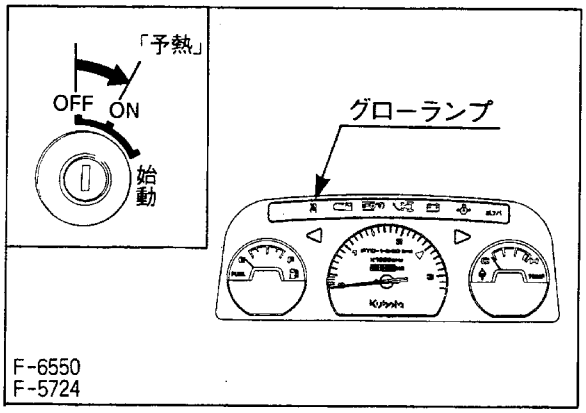
❸ポジションレバーを「前方に倒し」作業機を下げます。



❹アクセルレバーを「中程」まで引きます。



❺メインスイッチにキーを差込み「ON」位置にし，予熱します。グローランプが消灯すれば予熱完了です。

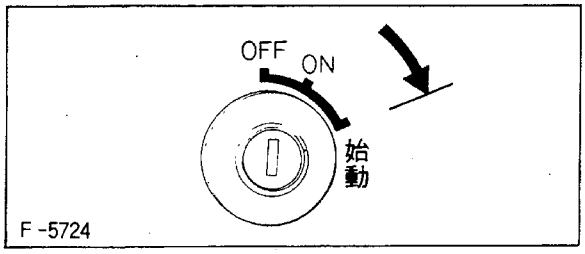


❻クラッチペダルを「踏込み」ます。

注意

- クラッチペダルを踏込まないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

❼キーを「始動」位置に回します。



注意

●セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

❽エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。自動的に「ON」にもどります。

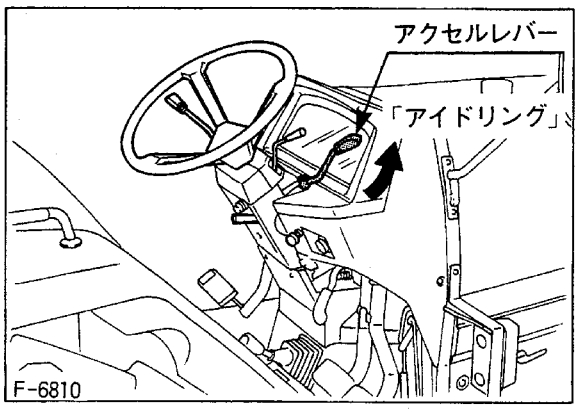
注意

●エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障の原因になります。

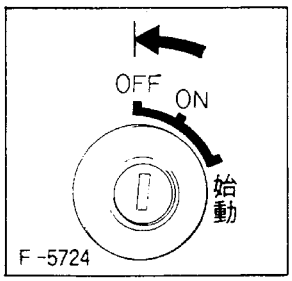
❾クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま必ず暖機運転しましょう。

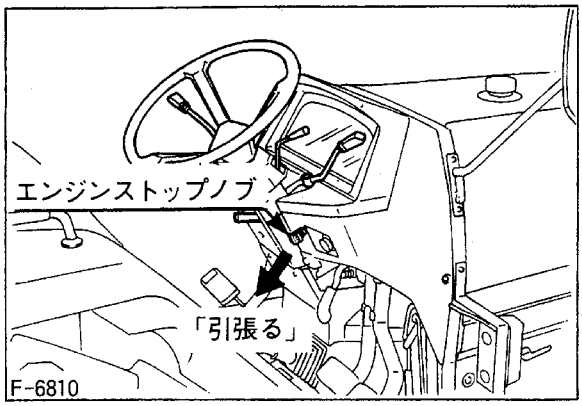
エンジン停止のしかた

❶アクセルレバーをいっぱい前へ「押し」てアイドリング状態にします。



❷メインスイッチのキーを「OFF」の位置にすると，エンジンは止まります。
（万一停止しないときは，エンジンストップノブをいっぱい引張ると止まります。）





注意

(1)エンジンストップノブは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブを引いた状態では，エンジンは始動しません。

(2)エンジンが停止して8～12秒後，カチッと音がしますが，これはエンジン停止装置が作動する音です。

❸キーは必ず「抜き」ましょう。

ならし運転（最初の約50時間）

この期間中は，特に次のことを厳守してください。

(1)急なスタート，急ブレーキは慎んでください。

(2)必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。

(3)運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。

(4)悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。

暖機運転

このトラクタのノンクラッチ変速は油圧で作動し，その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しております。そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　温	暖機運転時間
0℃以上	少なくとも10分間
0～－10℃	10～20分間
－10～－20℃	20～30分間
－20℃以下	30分間以上

注意

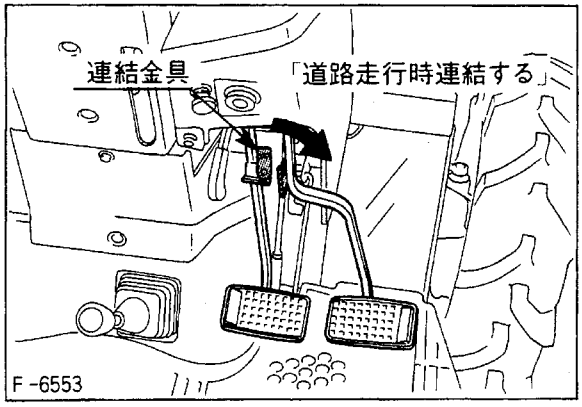
●暖機運転中は必ず駐車ブレーキをかけてください。

発進・走行

安全ポイント

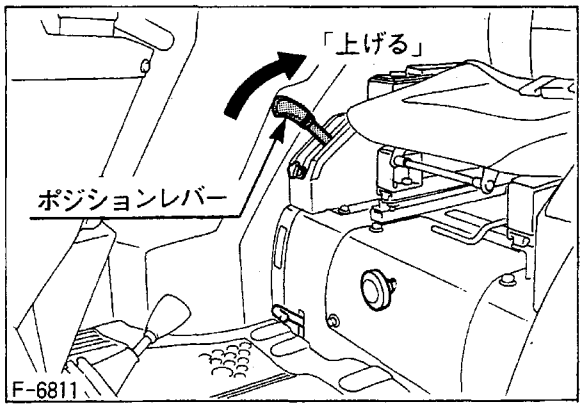
- トラクタを動かす前には，前後左右に注意してください。
  ▶もし怠ると……
  傷害事故を引起すことがあります。

❶ブレーキペダルが左右「連結」されていることを確認してください。



❷エンジン回転をアイドリングから「中速」回転にします。

❸ポジションレバーを「後方に引き」作業機を上げます。



❹主変速レバーを「１速」に入れます。

❺シャトルレバーを前進又は後進に「入れ」ると，トラクタが動き始めます。

❻主変速レバーを１段ずつ変速して，希望する位置まで変速してください。

- 主変速レバー・シャトルレバー操作は，走行中にノンクラッチで変速及び前後進することができます。

注意

油圧クラッチ・シンクロの寿命を保つため，次の点に注意してください。

(1)作業に合った車速とエンジン回転を選んでください。

(2)急激なシフトダウンは避けてください。

(3)寒冷時，ミッションオイルが暖まるまでは，主変速レバーでの発進が遅れることがあります。

- 十分に暖機運転をしてください。もし暖機運転をする時間がない場合は，シャトルレバーで発進するかクラッチを操作して発進してください。
- 発進が遅れたときでも，油温が上がってくると正常になり，トラクタが動き出します。
  変速を入れたままトラクタから降りないでください。

(4)トラクタの使い始めの変速時に，油圧クラッチのつながり音がする場合がありますが，油温が上がってくると正常になります。

安全ポイント

(1)安全のため，急激な変速は避けてください。
変速は１段ずつ行なってください。

(2)緊急停止時や，作業機の取付け・取外しなど狭い場所での作業時には，クラッチを使用してください。

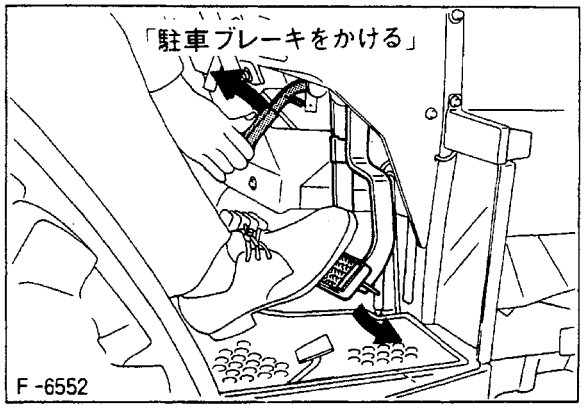
(3)走行中は，主変速レバーに手を置いたままにしないでください。

(4)急な坂道，車輌への積み・降ろし，ほ場への出入り，あぜの乗り越えなどでは，途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。

(5)ポンパで作業機を上げたまま走行しないでください。軽く手を触れただけで作業機が落下する場合があります。

停車

❶アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。
❷クラッチ及びブレーキペダルを踏込みます。
❸完全に停止してから，シャトルレバー，主変速及びPTOレバーを「中立」にします。
❹作業機を取付けている場合は，ポジションレバーをゆっくり「前方に倒し」作業機を下げます。
❺駐車ブレーキを確実に「ロック」してください。



❻メインスイッチキーを「OFF」にして，エンジンを停止します。

安全ポイント

(1)トラクタを坂道の途中で止めておく場合は，タイヤに必ず車止めをしておきましょう。
(2)トラクタを駐車する場合は，必ず駐車ブレーキをかけてください。
▶駐車ブレーキをかけないと，Uシフトは油圧ミッションのため，変速を入れていてもメカ式ミッションのようにトラクタにブレーキをかけることができず，トラクタが動きだし傷害事故を引起すことがあります。
(3)トラクタを停止するときは，乾いた草やワラの上に止めないでください。マフラ排気口に草やワラが触れると，火災の恐れがあります。
(4)作業を終えてシートをトラクタにかけるときには，マフラ，エンジンが冷えてからにしてください。
(5)停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火する恐れがあります。

運転中の作動点検

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

◆イージーチェッカが点灯したときの処置

すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。

◆オーバヒートしたときの処置

オーバヒート(水温計の針が「H」にあるとき)したときは，
❶作業を中止し，
❷エンジンを約5分間アイドリング回転してから，
❸エンジンを停止し安全ポイントに注意して，次の点検・整備をしてください。
(1)冷却水の量(不足)，及び水もれがないか。
(2)防虫網およびラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
(3)ファンベルトのゆるみがないか。

注意

●オーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，直ちにエンジンを止めてください。冷却水が冷えてから水量(リザーブタンク，ラジエータ共)をチェックし，適量まで補給してからエンジンを再始動してください。

安全ポイント

●ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後10分以上たって冷えてからにしてください。
▶すぐ開けると……
熱湯によりヤケドすることがあります。

◆次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

(1)回転が急に下降したり上昇したりする。
(2)突然，異常な音をたてた。
(3)排気色が急に黒くなった。
(4)運転中，オイルランプが点灯した。
●点検整備は，販売店又は農協にご相談のうえ，その指示にしたがってください。

旋回

旋回するときは，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

安全ポイント

●高速で回ると，横転する危険があります。
デフロックペダルの解除を確認して，ゆっくりと回ってください。
▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

坂道での運転

(1)坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
(2)登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
(3)下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。
車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

安全ポイント

→ 納入品安全説明書８及び14ページ参照

(1)ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
(2)坂道では主変速を中立にしたり，クラッチを切ったりしないようにしましょう。
(3)下り坂では，エンジンブレーキを活用し，クラッチペダルは踏込まないようにしましょう。
急な坂では変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。
▶もし怠ると……
傷害事故を引起すことがあります。

ほ場への出入り時の注意

(1)ブレーキペダルの左右の連結を確認してください。
(2)耕作地への出入りは，高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。
(3)耕作地への出入りは，斜めに登り降りせず，直角に行なってください。
(4)登り始めは，作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。
トラクタの前・後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。
常に前・後輪のバランスを考えながら操作するようにしてください。
(5)あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。
(6)ほ場への出入りの際は，途中で変速すると危険ですので，変速しないでください。

安全ポイント

→ 納入品安全説明書８ページ参照

トラックへの積み・降ろし

トラックへの積込みは，バックで(低速)行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

注意

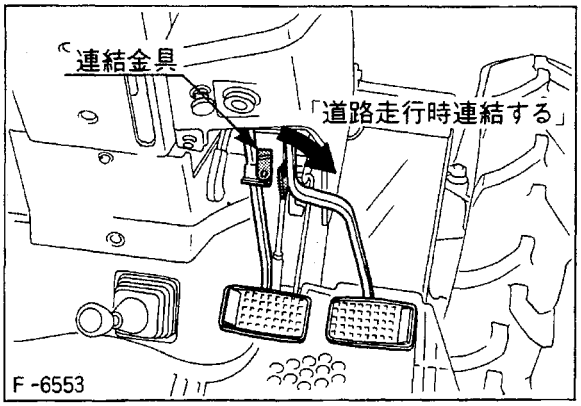
●積み・降ろし途中での変速は危険ですので操作しないでください。

公道走行中の注意

(1)公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせます。

(2)夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ライティングスイッチを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。

(3)左右のブレーキペダルは，必ず「連結」しておいてください。



(4)ロータリなど作業機を装着して公道を走行すると，「道路運送車両法」に違反することがあるので注意しましょう。

(5)踏切を渡る場合は，必ず一旦停止し，列車通過の有無を確認の上，速やかに渡ってください。

注意

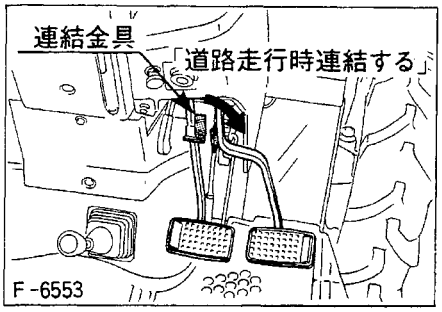
- 作業灯は「道路運送車両の保安基準」第42条(灯光の色などの制限)において，「走行中に使用しない灯火」とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

安全ポイント

(1)道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。

▶もし怠ると……

ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起すことがあります。



(2)道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転を心がけましょう。

▶もし怠ると……

交通事故を引起すことがあります。

(3)運転者のほかは乗せないようにしましょう。

→ 納入品安全説明書 4 ページ参照

▶もし怠ると……

傷害事故を引起すことがあります。

(4)溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意しましょう。

→ 納入品安全説明書 6 ページ参照

▶もし怠ると……

転落による傷害事故を引起すことがあります。

(5)ロータリなど作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。

→ 納入品安全説明書 6 ページ参照

(6)道路走行時にはモンロ／3P切換えスイッチを必ず「切」にして走行してください。

また，落下調整グリップを締込んで作業機の落下を防止してください。

→ 納入品安全説明書12ページ参照

パワーステアリングの取扱い上の注意

(1)パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。
ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。
なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。

(2)ドッキングローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
(ドッキングローダ使用時は，前輪タイヤ空気圧の調圧(41ページ参照)，トラクタ後部にウエイト又はロータリの取付け，前部ウエイト・前輪ウエイトの取外しを行なって，前後バランスを良くして安全に作業をしてください。)

(3)ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音(リリーフ音)が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。(短い時間ではかまいません。)
また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。

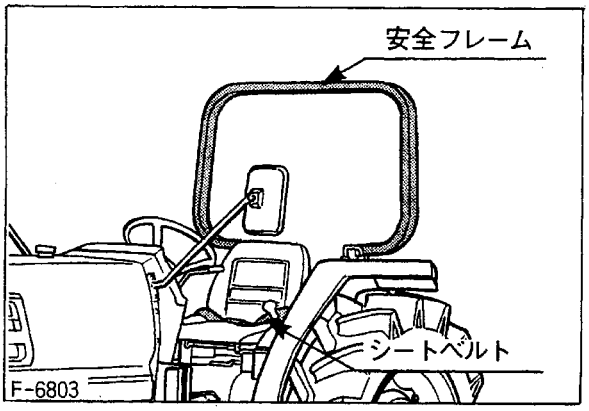
(4)不必要なハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。

(5)冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

(6)ハンドル操作は大変軽くなりますので，道路走行は慎重に行なってください。

安全フレームとシートベルトについて【GL-40・46・53・35Y・43Y仕様】

GL-40・46・53・35Y・43Y仕様は安全フレームを標準装備しております。
安全フレームは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。
運転中は，安全フレームと合せ，必ずシートベルトを着用し，常に安全運転を心がけてください。



安全ポイント

● トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。また，運転中は必ずシートベルトを着用してください。
▶シートベルトを着用しないと……
転倒したときに重大事故を起こすことがあります。

トラクタ使用前の点検について(仕業点検)

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。仕業点検は毎日欠かさず行なってください。

安全ポイント

●点検をするときは，必ずエンジンを止め作業機を降ろしてから行なってください。

■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日の異常箇所　　参照ページ

(2)トラクタの回りを歩いて

- ●タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷……41ページ
- ●タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
- ●油もれ及び水もれ
- ●エンジンオイルの量及び汚れ……36ページ
- ●ミッションオイルの量及び汚れ……37ページ
- ●冷却水の量……34ページ
- ●ファンベルトの張り具合，損傷……39ページ
- ●エアークリーナのバキュエータバルブの清掃……39ページ
- ●燃料フィルタの水，沈殿物の点検……38ページ
- ●車体各部の損傷，及びボルト・ナットのゆるみ
- ●作業機取付けピンの脱落
- ●各ランプ類の損傷
- ●ナンバプレートの汚れ，損傷……2ページ

(3)運転席に座って

- ●ブレーキペダル，クラッチペダルの遊びと作動……40ページ
- ●駐車ブレーキの作動
- ●ハンドルの作動
- ●バックミラーの汚れ及び損傷

(4)メインスイッチを入れて

- ●燃料計の作動……4ページ
- ●燃料は十分か
- ●ランプ類及びイージーチェッカの点灯及び汚れ……4，6ページ
- ●メータ類の作動……5ページ
- ●ホーン，ウインカランプの作動……4ページ

(5)エンジンを始動して

- ●イージーチェッカの消灯……6ページ
- ●排気ガスの色
- ●ブレーキの効き，片効き
- ●ポジションレバーによる油圧昇降

トラクタの簡単な手入れと処置

安全ポイント

●給油及び点検整備するときは，❶トラクタを平たんな広い場所に置き，❷エンジンを止め，駐車ブレーキをかけ，❸作業機を降ろし，安全を確認してから行なってください。

▶もし怠ると……傷害事故を引起すことがあります。

定期点検箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，販売店・農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	点検項目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)															購入日から		参照
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	1年	2年	ページ
1	エンジンオイルの交換	◎	○		○		○		○		○		○		○		○			36
2	エンジンオイルフィルタカートリッジの交換	◎			○				○				○				○			38
3	ミッションオイルの交換	◎					○						○							37
4	油圧オイルフィルタカートリッジの交換	◎			○				○				○				○			38
5	前車軸ケースのオイル交換						○						○							37
6	グリースの注入と注油	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			43
7	クラッチペダルの遊び点検	◎		○			○			○			○			○				40
8	ブレーキペダルの遊び点検			○			○			○			○			○				40
9	トーインの点検				○				○				○				○			41
10	バッテリの電解液量の点検			○			○			○			○			○				44
11	ラジエータホースの締付バンドのゆるみ点検			○			○			○			○			○				46
12	油圧・燃料パイプ取付ねじのゆるみ点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			46
13	ファンベルトの張り点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			39
14	燃料フィルタエレメントの交換								○								○			38
15	前車軸支持部の遊び調整												○							42
16	バルブクリアランスの点検	販売店又は農協で交換及び点検をしてもらってください。															○			—
17	燃料噴射ノズルの噴射圧の点検																○			—
18	エンジン冷却系統(ラジエータ内部)の洗浄																○			35

【注】◎はならし運転の50時間後に必ず行なってください。

No.	点検項目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)																購入日から		参照
		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	1年	2年	ページ
19	パワーステアリングシリンダ,ホース,コントローラよりの油漏れ点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			—
20	エンジン冷却水の交換(不凍液使用の場合)																		○	34
21	エアークリーナエレメントの清掃		○		○		○		○		○		○		○		○			39
22	エアークリーナエレメントの交換																	○6回掃除ごと		39
23	パワーステアリングゴムホースの交換																		○	46
24	燃料パイプの交換																		○	46
25	ラジエータホースの交換																		○	46
26	操向装置,タイロッドの点検																○			—
27	車体各部のボルト,ナット及びピン類の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			—
28	ワイヤハーネス,バッテリ⊕コードの点検と交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			44

給油(水)一覧表

No.	給油(水)項目	容量(ℓ)				備考
		GL-35	GL-40	GL-43	GL-46・53	
1	燃料	50				ディーゼル重油又はディーゼル軽油
2	冷却水	7.5	8.5	7.5	9.3	清水(不凍液を入れた場合は,その量だけ少なく清水を入れてください。)
3	エンジンオイル	6.7	8.2	6.7	9.1	クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)
4	ミッションオイル(油圧オイル)	35				クボタ純オイルUDT(52ページ参照)
5	前車軸ケース	6.0				クボタ純オイルUDT又はM80B(52ページ参照)
6	各操作レバー・ペダル支点	注油				
7	3点リンク	注入・塗布				シャーシグリース(52ページ参照)
8	バッテリターミナル	塗布				
9	倍速カム	塗布				

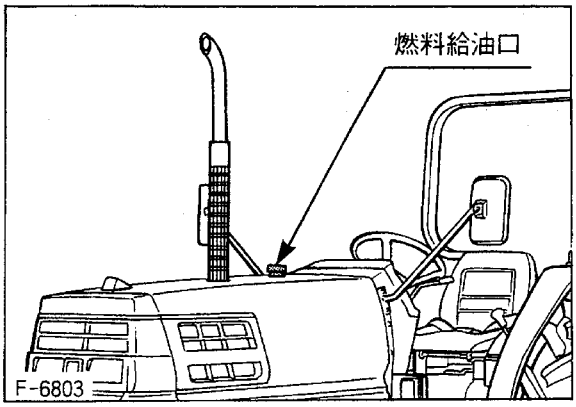
燃料について

■使用燃料

燃料には，「クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油」を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　　類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特 1 号	＋5以上
1　　号	0及び－5
2　　号	－10
3　　号	－15及び－20
特 3 号	－25及び－30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



注意

(1)燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，注意してください。
(2)燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
(3)燃料キャップが締まっているか確認してください。

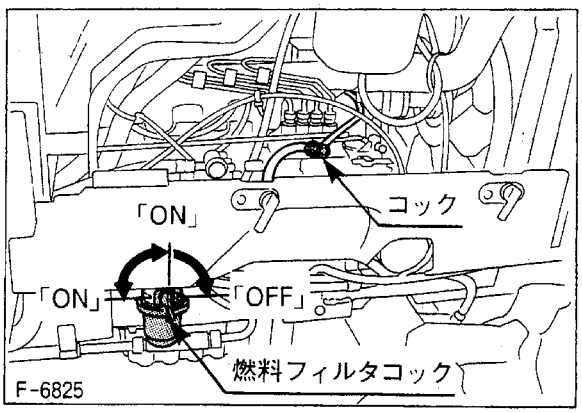
燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは，

- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

に行なう必要があります。

❶燃料フィルタのコックを「ON」にする。



❷燃料噴射ポンプの上のコックを開く。

【GL-35・40・43仕様】

❸タンクに燃料を満たす。
❹エンジンを始動し，約1分間運転後停止する。
❺燃料噴射ポンプのコックを閉じる。

【GL-35・40・43仕様】

注意

- 空気抜きするときのほかは燃料噴射ポンプのコックは必ず閉じておいてください。エンストの原因になります。【GL-35・40・43仕様】

冷却水について

安全ポイント

●ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後十分冷えてからにしてください。

▶もし怠ると……

熱湯によりヤケドすることがあります。

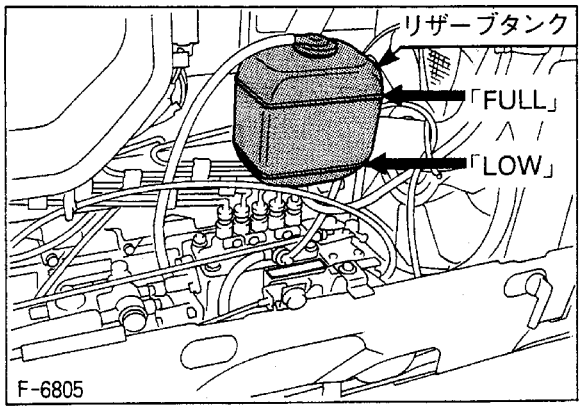
◆点検

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。

冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。「FULLからLOWの範囲」であれば正常です。

冷却水がLOW以下の場合は，FULLのレベルまで補給してください。

FULL以上は入れないでください。



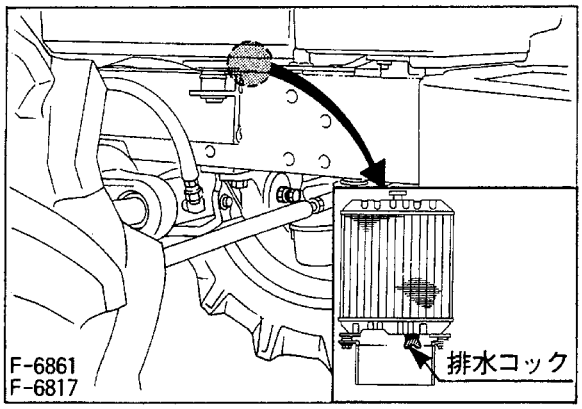
注意

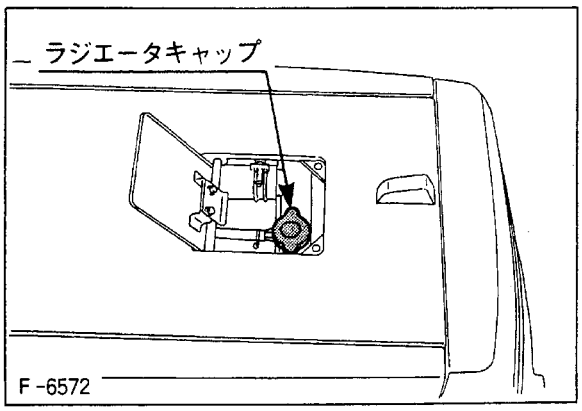
●ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

◆交換

❶ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。

リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。





❷水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めてください。

❸ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入し，キャップを確実に締めてください。

■不凍液の使い方

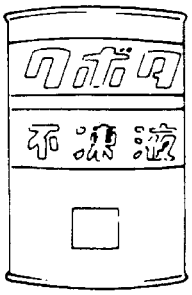
不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。

〔工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。〕

注意

(1)冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を50%入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。



F-1012改

(2)不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。

(3)不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。

(4)クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。
必ず2年で交換してください。

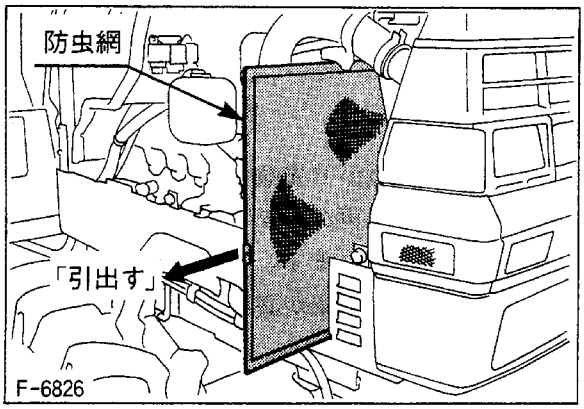
■防虫網の清掃

安全ポイント

●エンジンは必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので，こんなときは防虫網を清掃してください。

防虫網を引出して掃除します。



■ラジエータ・インタクーラ【GL-43仕様】コアーの清掃

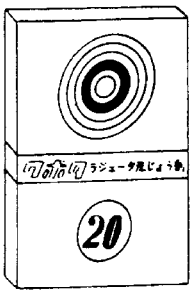
フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は，水道水(圧力水)で流してください。

注意

●ヘラやドライバなど固いもので清掃してはいけません。特殊フィンを傷めラジエータの機能をなくす原因になります。

■ラジエータの洗浄

洗浄には，クボタラジエータ洗じょう剤No.20を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。



Z-1009改

■ラジエータから水漏れした場合

(1)少しの水漏れの場合は，クボタラジエータセメントNo.40を使用すれば，止まります。

(2)水漏れが激しい場合は，お買いあげいただいた販売店・農協にご相談ください。

各部への給油と交換

(1)点検するときは，トラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。

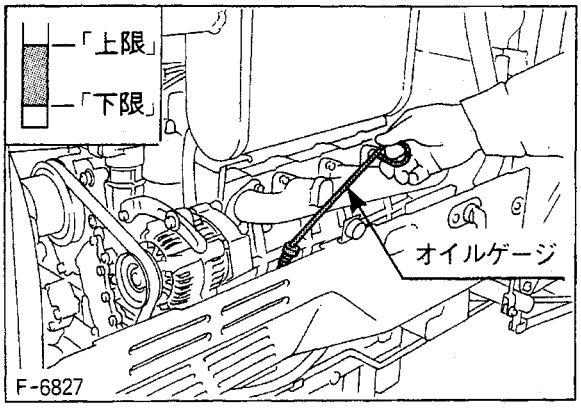
(2)使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ギヤーオイルは，必ず「クボタ純オイル」を使用してください。

■エンジンオイル

◆点検

❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，ゆっくり差込んでから再び抜き「下限と上限の間」にオイルがあるかを調べます。

❷下限以下の場合は補給が必要ですが，上限以上には入れないでください。

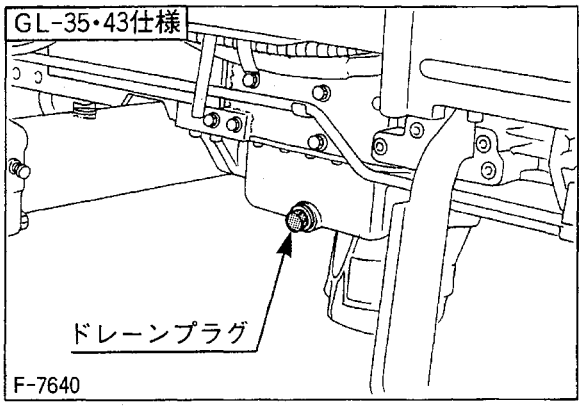


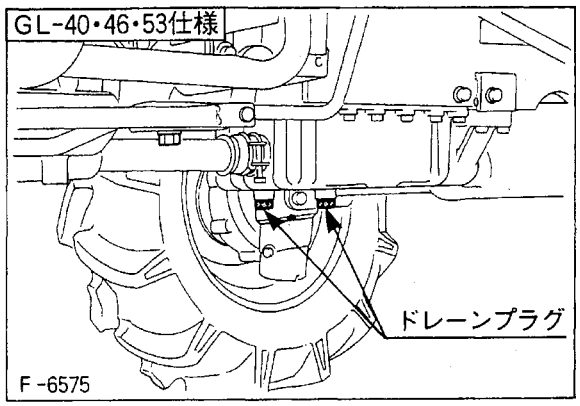
注意

- オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めて約5分以上たってから点検してください。
  そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

◆交換

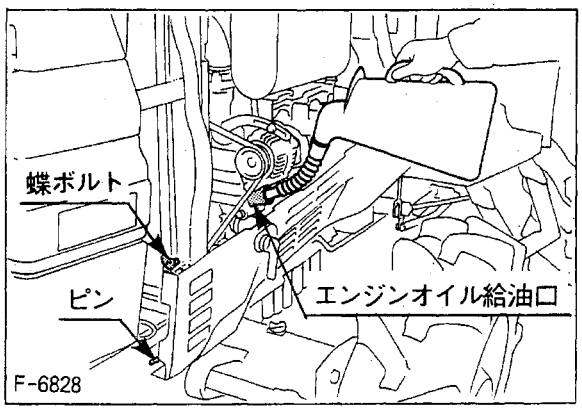
❶ドレーンプラグを外してオイルを出します。このときオイルが暖まっている方が出やすくなります。ただしヤケドに注意してください。





❷蝶ボルトを外し，スカートを少し斜め上に持上げるとスカートが外側に開きます。
組付け時は，下側のピンを確実にはめ込んでから蝶ボルトで締付けてください。

❸エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと入れやすくなります。



注意

(1)今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度No.の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
注ぎ足し使用は絶対しないでください。

(2)気温により次のように使いわけてください。

15℃以下	D10W30(オールシーズン用)
15℃以上	D30，又はD10W30

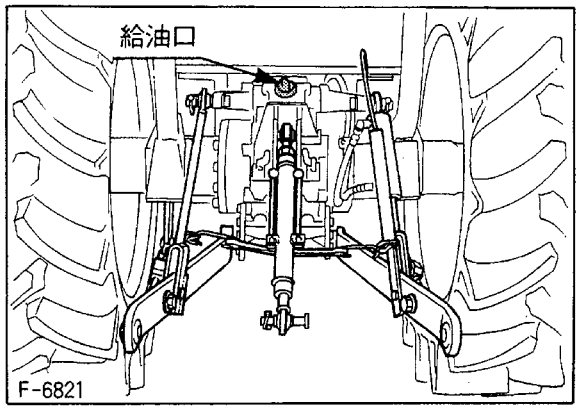
- 冬期は必ずD10W30を使用してください。
- GL-35・43のターボ付き仕様は，クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)D30スーパーCD又はD10W-30スーパーCDを使用してください。

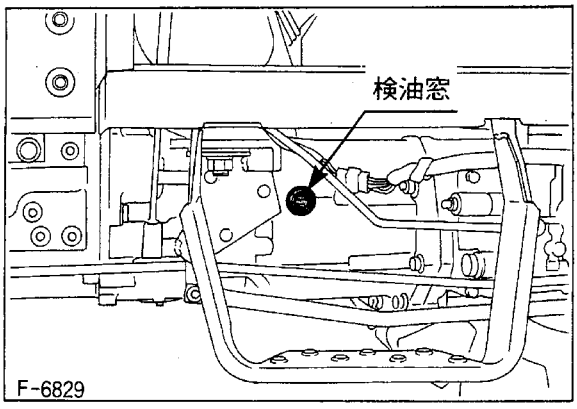
■ミッションオイル

◆点検

❶エンジン始動後，オイルレベルが検油窓にあるかを調べます。ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。

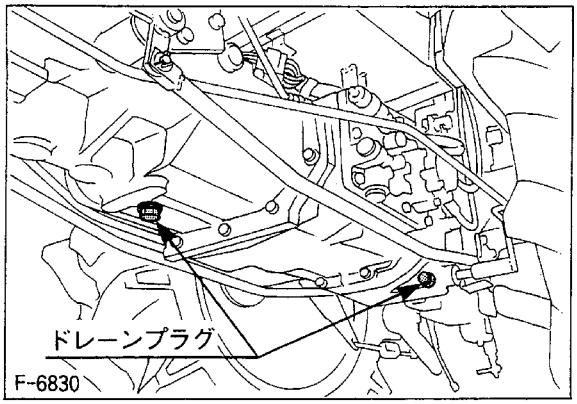
❷検油窓以下の場合は補給が必要ですが，検油窓以上には入れないでください。(油量はオイルレベルが検油窓内に見える範囲にしてください。)





◆交換

❶ドレーンプラグ(２カ所)を外してオイルを出します。

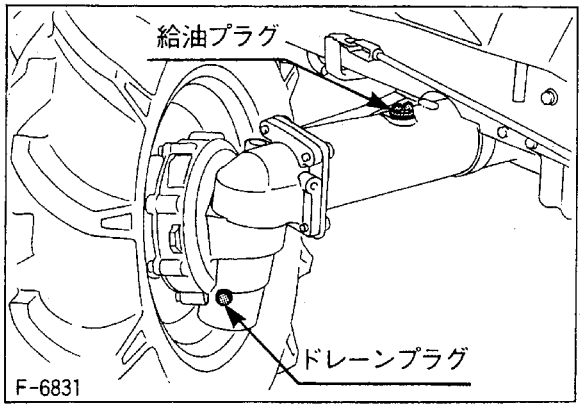


❷ミッションオイルを給油口から，規定量まで入れてください。

■前車軸ケースのオイル

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを出します。

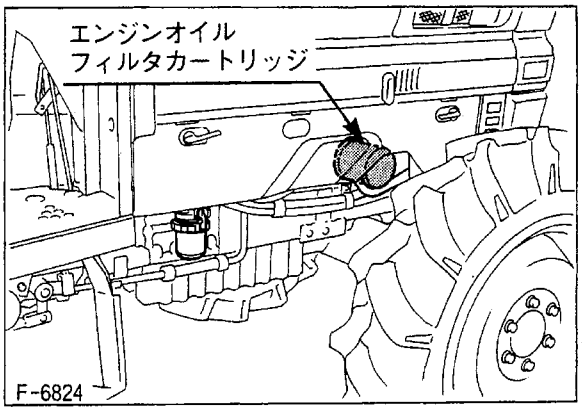


❷ギヤーオイルM90又はM80B，UDTを給油口から，規定量入れてください。

フィルタの交換と洗浄

■エンジンオイルフィルタ カートリッジの交換

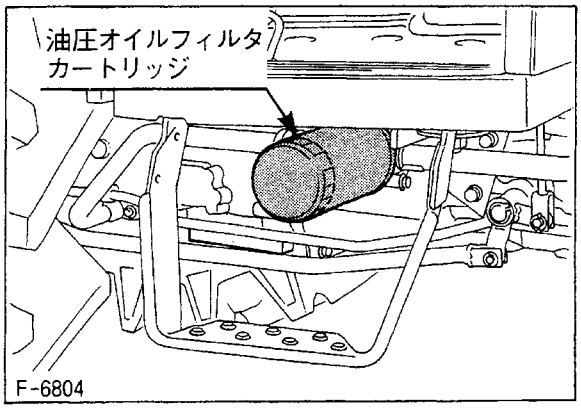
オイルフィルタは，カートリッジタイプです。
このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しいカートリッジと交換してください。



❶フィルタレンチでフィルタを取外します。
❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，手で確実に締付けます。
❸エンジンオイルを規定量まで補給します。
❹約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないかまた，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
❺再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給する必要があります。

■油圧オイルフィルタ (カートリッジ)の交換

純正部品のカートリッジと交換してください。



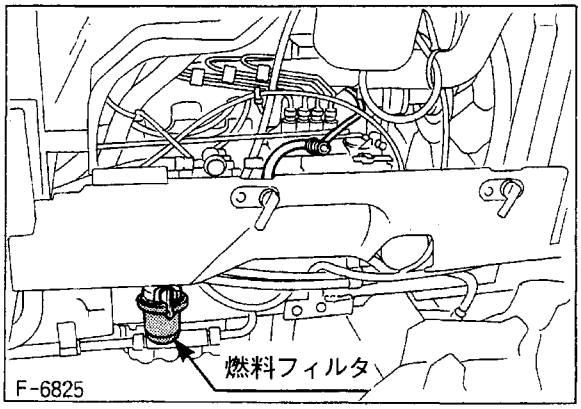
❶ミッションオイルを抜きます。
❷フィルタレンチでフィルタを取外します。
❸新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，手で確実に締付けます。
❹ミッションオイルを規定量まで補給します。
❺約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。

■燃料フィルタエレメントの清掃 交換

燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿します。水・ゴミがたまったらコックを閉じ，フィルタを外し，水・ゴミを取除いてください。
このときは，必ず空気抜きをする必要があります。
❶燃料フィルタのコックを閉じてください。
❷カップ上部のリテーナリングをゆるめてカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
❸新しいフィルタエレメントと交換します。

注意

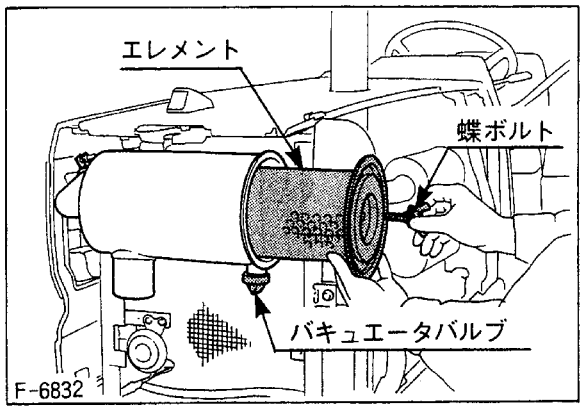
(1)組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
(2)エレメントを交換したのちは，必ず空気が抜けたことを確かめた後，運転してください。



■エアクリーナエレメントの清掃交換

(1)乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。

(2)バキュエータバルブを開き，大きなゴミを取除いてください。



◆エレメントの清掃

清掃方法は，エレメントの注意書にくわしく書いてありますので，参照してください。

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。(エアーの圧力は7 kgf/㎠を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)

エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，洗浄剤をご使用ください。

【参考】

エレメント洗浄剤

品名	ND−1500(日本ドナルドソン製)
品番	15221−8665−1

注意

- **エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。**

◆エレメントの交換

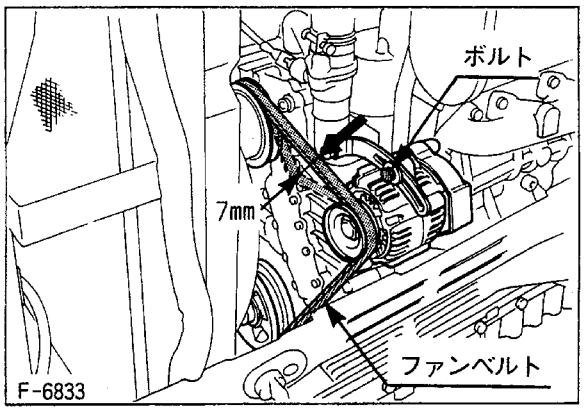
エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。

各部の点検・調整

■ファンベルトの張り

ベルトの調整が悪いと，オーバヒートや充電不足の原因になります。

ベルトの中央部を指先で押えて，たわみ量が「約7㎜」程度あるか確認してください。また，き裂やはがれがないかを調べます。



◆調整方法

❶ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。

❷調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。

■クラッチペダルの遊び

遊びが適正でないと，クラッチ切れ不良，伝動不良を起し，損傷につながります。

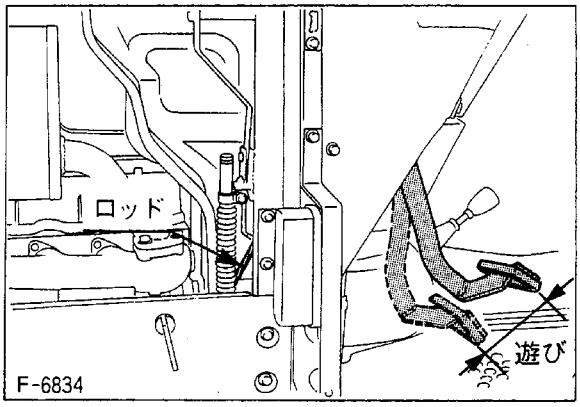
◆点検

クラッチペダルの遊び量が「30～40mm」あるかを確認してください。

◆調整

❶ナットをゆるめ頭付きピンを外してクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。

❷調整後はナットを確実に締め付け，更に割ピンは確実に折り曲げておいてください。

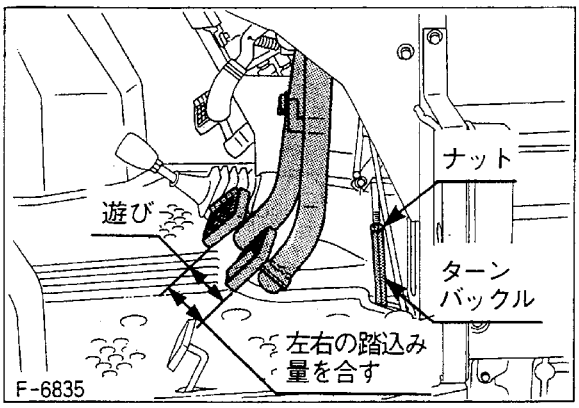


■ブレーキペダルの遊び

ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

◆点検

ペダルを踏んで遊び量を「20～30mm」及び左右ブレーキの踏込み量が「不均一」になっていないかを調べます。



◆調整

❶ナットをゆるめターンバックルを回して，ペダルの遊びを調整します。調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。

❷ブレーキペダルを踏込んだとき，駐車ブレーキレバーが確実に作動するかを確認してください。

安全ポイント

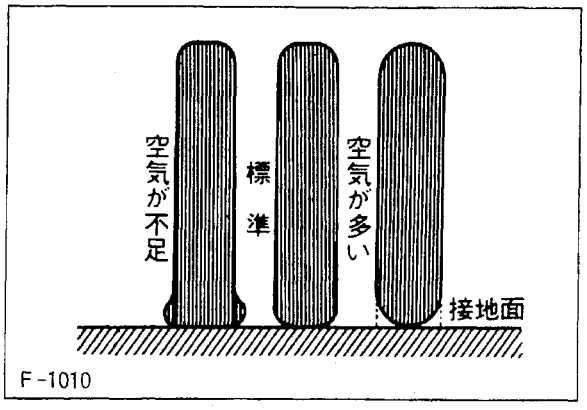
●調整時左右のペダルの踏込み量を必ず合せてください。合っていないとブレーキが片ぎきになります。

▶もし怠ると……

傷害事故を引起すことがあります。

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。



◆標準空気圧

(　)内はローダ装着時

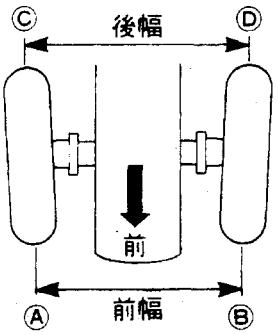
		タイヤの呼び	空気圧(kgf/cm²)
前輪		8-18-4PR 8.3-20-4PR	1.6(2.0)
後輪	GL-43	13.6-26-4PR	1.0
	GL-46	13.6-28-4PR	
	GL-35 GL-40	12.4-28-4PR	1.2
	GL-53	12.4-32-4PR	

■トーイン調整

トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

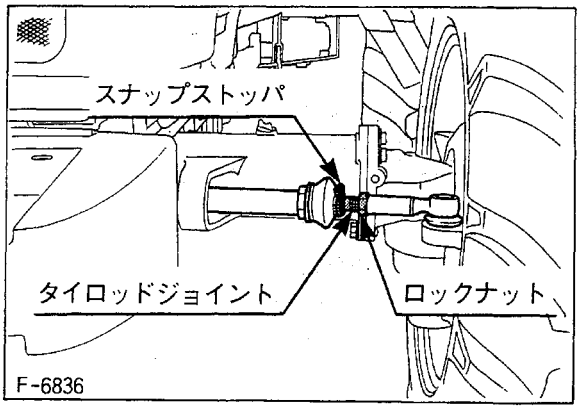
◆点検

前輪の前幅ⒶⒷと後幅ⒸⒹを測り，ⒸⒹ－ⒶⒷ＝2～8㎜になっているかを調べます。



◆調整

❶スナップストッパをゴムブーツより外してロックナットをゆるめます。
❷タイロッドジョイントを回して調整します。
❸調整後はナットを確実に締付けておいてください。



■倍速ロッドの調整

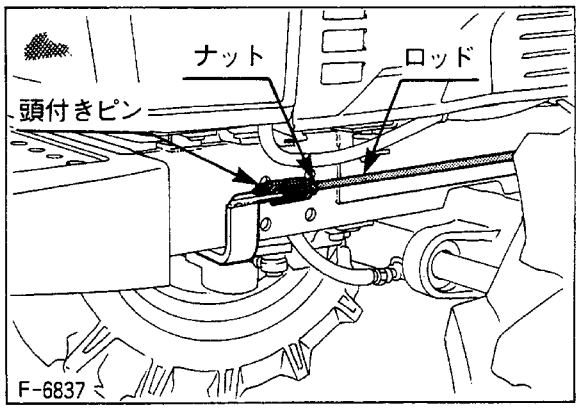
◆調整

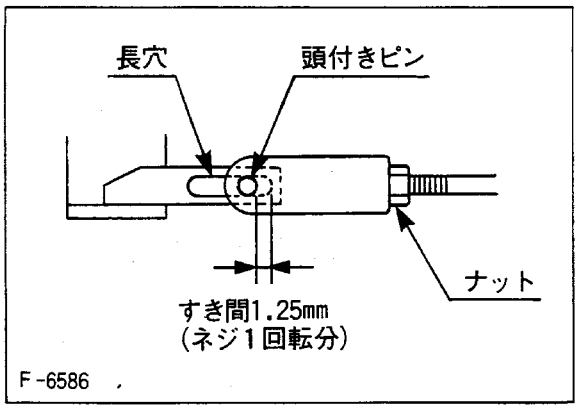
❶倍速ターンレバーを倍速ターン「入」の位置にします。

注意

- **前輪は必ず直進状態にしておいてください。このとき，ロッドが後端まで戻っており，倍速ターンレバーが前輪駆動「入」↔倍速ターン「入」に軽く切換わることを確認してください。**

❷ナットをゆるめ頭付きピンを外し，長穴の後端と頭付きピンのすき間が1.25㎜になるように，ロッドの長さを調整します。





❸調整後はナットを確実に締付け，更に割ピンは確実に折り曲げておいてください。

❹倍速ターンレバーの倍速ターン「入」↔前輪駆動「入」の切換えがスムーズにできることを確認してください。

■前車軸支持部の遊び

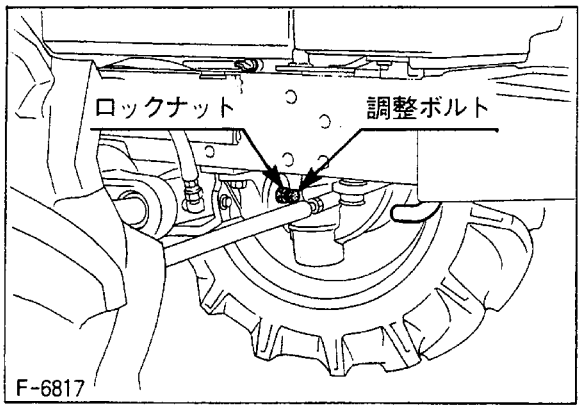
前車軸支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆調整

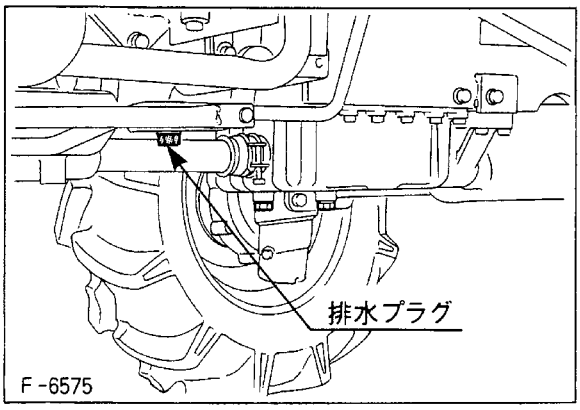
ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込み，ガタを調整します。



■フライホイールハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，フライホイールハウジングに多量の水がかかった場合，又は50時間使用ごとにフライホイールハウジング底の排水プラグを外して，水の侵入がないことを確認してください。

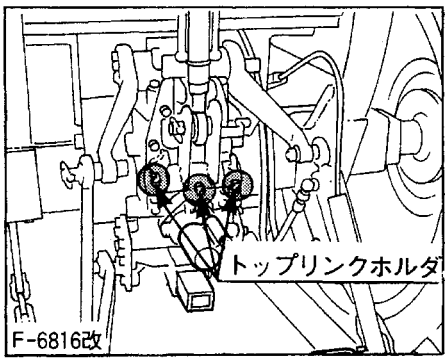
もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。

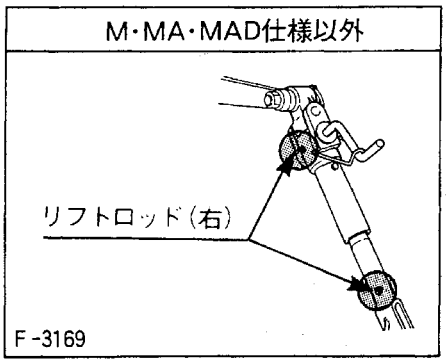


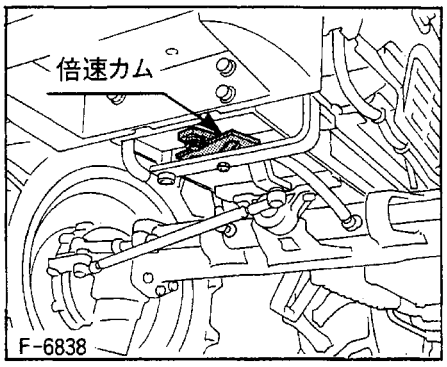
グリースの注入と注油

通常のグリースアップは，定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし，代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，「クボタ推奨グリース」を使用してください。(52ページ参照)

■グリースの注入——シャーシグリースを少量注油します。







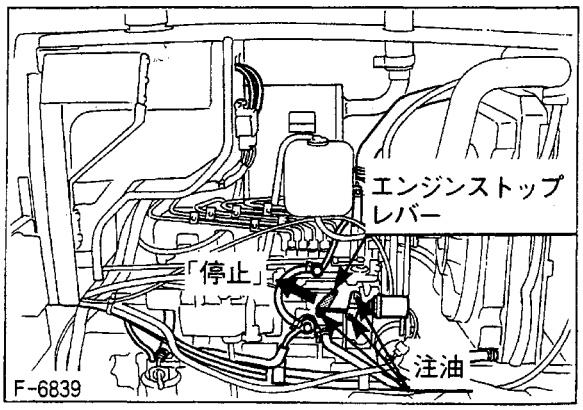
■注油

◆停止ソレノイドリンクへの注油

ソレノイドリンクの注油及び清掃は，１年に１回使用前及び長期格納時に行なってください。
注油後，アクセルレバーをアイドリングの位置にして，エンジンストップレバーが手で軽く動くことを確認し，更にエンジンを始動してメインスイッチ「OFF」でエンジンが停止するか確認してください。

注意

- この部分は，メインスイッチによるエンジン停止を行なう機構ですので，水田などに入って泥などが侵入したときは，適宜清掃を行なってください。



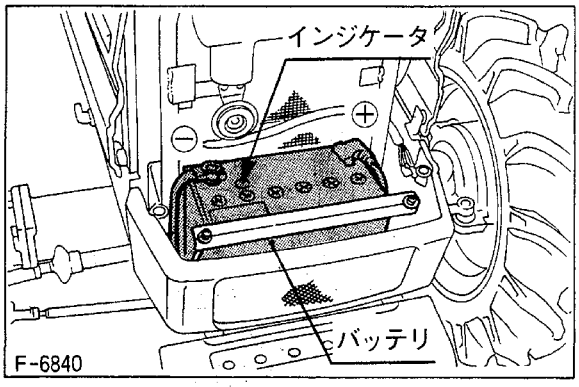
電気系統の点検

安全ポイント

(1)バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。
▶付着したまま放置すると……
希硫酸によって,ヤケドすることがあります。
(2)バッテリの点検及び取外し時には，エンジンを停止し，メインスイッチを「OFF」にしてください。

■バッテリの取付け，取外し

❶バッテリを取外すときは，バッテリ⊖コードを最初に外し，次に⊕コードを外してください。
❷取付けるときは，必ず⊕側から取付けます。
逆にすると,工具が当った場合にショートします。



■バッテリ液の点検

バッテリはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り具合がきわめて少なくなっていますが上面にインジケータがあり，その表示状態によって精製水を補給，または補充電してください。

◆インジケータの見方

青…OKです。白…点検してください。

インジケータ表示状態	青	電解液比重 電解液量	共に良好です。
	白	要点検です (点検順序) ①液面が下っている場合精製水を補水し，青になればそのままご使用ください。白のままの場合は，6～7Aの普通充電電流で補充電してください。 ②液面が正常な場合 6～7Aの普通充電電流で補充電を行なってください。	

注意

(1)バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
(2)バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
(3)バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
(4)充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。
コードの接続をまちがわないように注意してください。
(5)新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式(75D31R-MF，95D31R-MF)のバッテリを使用してください。
(6)バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの⊕，⊖のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

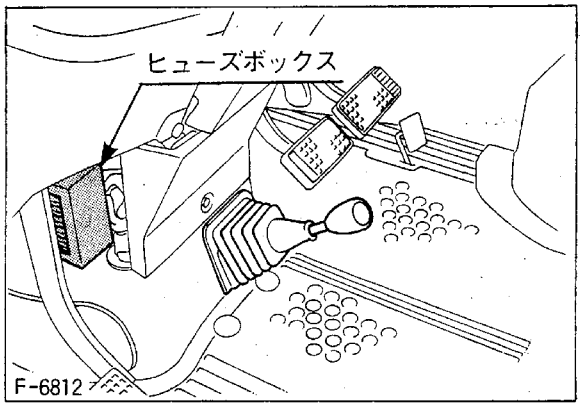
■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

安全ポイント

(1)ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
(2)バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ,ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。
(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
(2)ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
(3)各スイッチが確実に作動すること。

■ヒューズの交換



❶ヒューズボックスのふたを外す。
❷ヒューズを外す。
❸切れたものと同容量のヒューズと交換する。

【GL-35・43仕様の安全フレーム付き】

指定容量以外のヒューズは使用しないでください。				
	モンロー	10A		
	電源取り出し	15A		
	電源取り出し	15A		
	フラッシャー 作業灯	10A		
	ヘッドランプ ホーン	15A		
	パネル，リレー オルタネータ	10A		
	キーストップ	15A		

【GL-35・43仕様のキャビン付き】

指定容量以外のヒューズは使用しないでください。	ラジオ	10A		
	モンロー	10A		
	電源取り出し	15A		
	電源取り出し	15A		
	フラッシャー	10A		
	ヘッドランプ ホーン	15A		
	パネル，リレー オルタネータ	10A		
			作業灯前	15A
	ヒーター，カーフィン ルームランプ	10A	作業灯後	15A
	キーストップ	15A	ワイパー	15A

【GL-40・46・53仕様の安全フレーム付き】

指定容量以外のヒューズは使用しないでください。				
	モンロー	10A		
	電源取り出し	15A		
	電源取り出し	15A		
	フラッシャー，作業灯 ブレーキランプ バックランプ	15A		
	ヘッドランプ テールランプ 車幅灯，ホーン	20A		
	パネル，リレー オルタネータ	10A		
	パーキングランプ	10A		
	キーストップ	15A		

【GL-40・46・53仕様のキャビン付き】

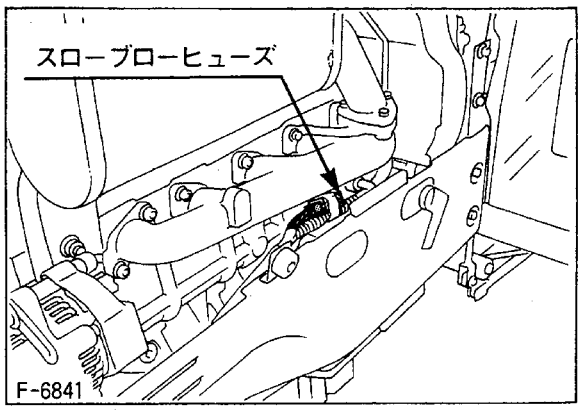
指定容量以外のヒューズは使用しないでください。	ラジオ	10A		
	モンロー	10A		
	電源取り出し	15A		
	電源取り出し	15A		
	フラッシャー ブレーキランプ バックランプ	15A		
	ヘッドランプ テールランプ 車幅灯，ホーン	20A	エアコン （ブロアモータ）	20A
	パネル，リレー オルタネータ	10A	エアコン （コンプレッサ）	10A
	ルームランプ	10A	作業灯前	15A
	パーキング	10A	作業灯後	15A
	キーストップ	15A	ワイパー	15A

注意

(1)ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，販売店か農協で点検，修理してください。

(2)トラクタに作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは，販売店・農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。

■スローブローヒューズの交換



スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

注意

●小特（GL-35・43仕様）は40A。
大特（GL-40・46・53仕様）は50A。

パイプ類の点検

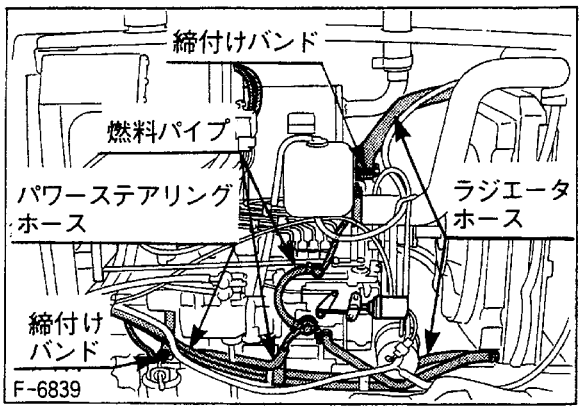
安全ポイント

●燃料パイプ，ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検しましょう。
▶もし怠ると……
燃料もれによる火災や傷害事故，熱湯もれによるヤケドなどの事故を引起します。

燃料パイプやラジエータホース，パワーステアリングホースなどのゴム製品は，使わなくても老化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

(1)パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。

(2)燃料パイプを交換する場合は，必ず空気抜きをする必要があります。



注意

●交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

(1)不具合箇所は整備してください。

(2)エンジンオイルを交換し，2000回転／分以上で10～15分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。

(3)定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。

(4)車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。

(5)燃料コックを「OFF」にしておいてください。

(6)冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。

(7)フライホイールハウジング底のドレーンプラグを外して，水が浸入していないことを確認してください。

(8)タイヤの空気圧は，標準より少し多めにしてください。

(9)バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。また本機に取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。

(10)ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。

(11)後輪の前後に車止めをしておいてください。

(12)各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。

(13)格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。

(14)格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

(15)燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，タンク内のサビの原因になります。

安全ポイント

●シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
▶もし怠ると……
火災を起す原因になります。

注意

●長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアークリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　　象	原　　因	処　　置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	●燃料タンクを点検し，沈澱している不純物や水分を除く。 ●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	●パイプ及び締付バンドを点検し，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ●空気抜きをする。(33ページ参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	●気温によってオイルの使い分けをする。 (冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	●バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●エンジンの空気抜きコックが開いていないか調べる。
	(2)燃料の流れ不足	●燃料フィルタの清掃をする。
	(3)エアークリーナの目詰まり。	●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●エンジンの空気抜きコックが開いていないか調べる。【GL-35・40・43仕様】
	(2)燃料が流れない。	●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	●良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	●正規のオイル量にする。
	(3)エアクリーナの目詰まり。	●エレメントを清掃する。
水温計の指針がレッドゾーン付近を示すとき	(1)冷却水が125℃付近になったため。	●冷却水の量(不足)及び水もれの点検 ●ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 ●フロントグリル，ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	(1)前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終っている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	●負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	(2)ノズル不良	●ノズルを点検する。
	(3)燃料不良	●良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，お買いあげいただいた販売店・農協にご相談ください。

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

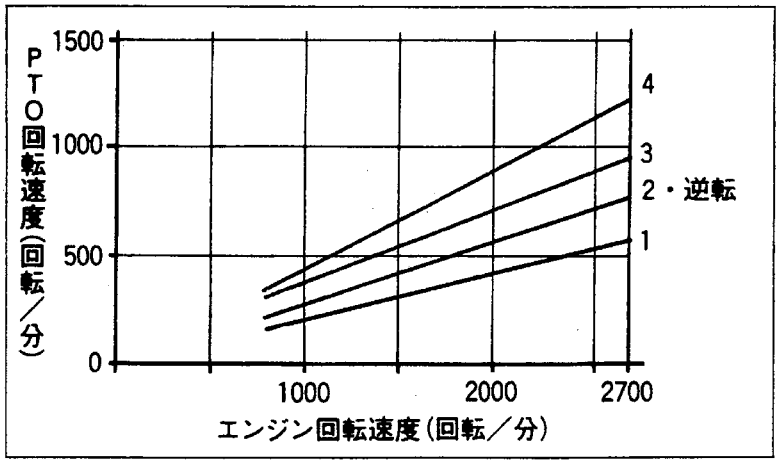
形式			GL-35	GL-43	GL-40	GL-46	GL-53
駆動方式			4輪駆動				
機体寸法	全長(mm)		3495			3630	
	全幅(mm)		1460	1480	1550	1560	1505
	全高(mm)		1980		2200		2230
	軸距(mm)		1850			1985	
	輪距	前輪(mm)	1205				1225
		後輪(mm)	1140～1600 (7段)	1140～1530 (7段)	1150～1610 (7段)		1175～1570 (5段)
	最低地上高(mm)		360				395
重量(kg)			1575	1600		1700	1740
エンジン	名称		クボタD1503-T	クボタD1503-TI	クボタV2203	クボタF2503	クボタF2803
	形式		水冷4サイクルディーゼル				
	総排気量(cc)		1499		2197	2499	2746
	出力/回転速度(PS/rpm)		35/2700	43/2700	40/2600	46/2600	53/2600
	使用燃料		クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油				
	燃料タンク容量(ℓ)		50				
	始動方式		セルモータ式(グロープラグ付)				
	バッテリ		75D31R MF(メンテナンスフリー)		95D31R MF(メンテナンスフリー)		
タイヤ	前輪		8-18 4PR				8.3-20 4PR
	後輪		12.4-28 4PR ニューバランスタイヤ	13.6-26 4PR ニューバランスタイヤ	12.4-28 4PR ニューバランスタイヤ	13.6-28 4PR ニューバランスタイヤ	12.4-32 4PR ニューバランスタイヤ
車体	クラッチ方式		湿式多板				
	制動装置		一系統左右独立(連結装置付),湿式ディスクブレーキ(機械式)				
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング				
	差動方式		4ピニオンかさ歯車式(デフロック付)				
	変速方式		Uシフト/Uシャトル				
変速段数(段)			前進16,後進16(シャトル)				
走行速度(km/h)		前進	0.19～14.70	0.19～14.70	0.22～26.10	0.23～27.34	0.24～28.30
		後進	0.18～14.14	0.18～14.14	0.17～20.86	0.18～21.85	0.19～22.58
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)			2.5			2.6	
PTO	回転速度/エンジン回転速度(rpm)	正転	578,781 950,1249/2700		585,789 961,1263/2600		
		逆転	781/2700		789/2600		
	軸寸法(mm)		JIS 35				
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール(MAD：ドラフトコントロール)				
	装着方式		3点リンク JIS 1形				

■走行速度表

(km／h)

主変速レバー	クリープレバー	GL-35		GL-40		GL-43		GL-46		GL-53	
		前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
1	L	0.19	0.18	0.22	0.17	0.19	0.18	0.23	0.18	0.24	0.19
2		0.25	0.24	0.30	0.24	0.25	0.24	0.31	0.25	0.32	0.26
3		0.30	0.30	0.47	0.38	0.30	0.30	0.50	0.40	0.51	0.41
4		0.48	0.47	0.64	0.51	0.48	0.47	0.67	0.54	0.69	0.56
5		0.53	0.51	0.83	0.66	0.53	0.51	0.87	0.69	0.89	0.72
6		0.71	0.69	1.12	0.89	0.71	0.69	1.17	0.93	1.21	0.97
7		0.87	0.84	1.79	1.43	0.87	0.84	1.87	1.49	1.93	1.55
8		1.36	1.32	2.42	1.93	1.36	1.32	2.54	2.03	2.62	2.10
1	H	1.88	1.81	2.19	1.75	1.88	1.81	2.29	1.83	2.37	1.90
2		2.54	2.45	2.96	2.36	2.54	2.45	3.10	2.47	3.20	2.56
3		3.09	2.98	4.73	3.77	3.09	2.98	4.95	3.95	5.13	4.10
4		4.84	4.66	6.41	5.12	4.84	4.66	6.71	5.36	6.95	5.55
5		5.32	5.12	8.27	6.60	5.32	5.12	8.66	6.91	8.97	7.17
6		7.18	6.91	11.17	8.91	7.18	6.91	11.70	9.33	12.11	9.67
7		8.74	8.41	17.87	14.25	8.74	8.41	18.72	14.93	19.38	15.47
8		14.70	14.14	26.10	20.86	14.70	14.14	27.34	21.85	28.30	22.58

■PTO回転速度表



標準付属品

品　　名	数量／台	備　　考
ドライバー	1	＋，－差換え式
10－12　スパナ	1	
14－17　スパナ	1	
19－22　スパナ	1	
24－27　スパナ	1	
17－24　メガネ　レンチ	1	
プライヤ	1	
スローブローヒューズ	1	
メインスイッチキーアッシ	1	キー２コ＋安全憲章
取扱説明書	1	
サービスブック	1	
納入品安全説明書	1	
安全注意ポスタ	1	
ＰＴＯ軸カバー	1	
ボルト	1	ＰＴＯ軸カバー用
平座金	1	
バネ座金	1	

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

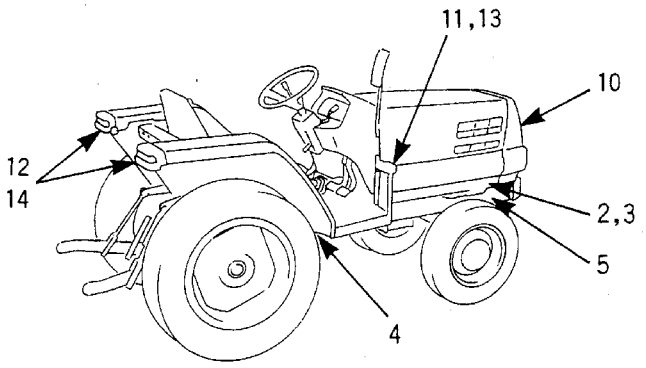
■エンジンオイル・ミッションオイル・ギヤーオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル	ギヤーオイルSAE90
日本石油	クボタ純オイル（ディーゼルエンジン用）D30又はD10W30 ターボ付エンジンは D30スーパーCD又は D10W30スーパーCD	クボタ純オイルUDT	クボタ純オイルM90
コスモ石油			
共同石油			
昭和シェル石油			

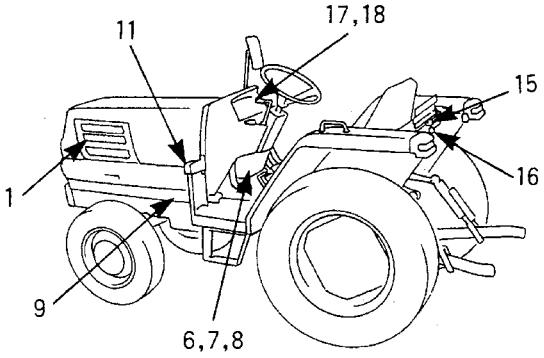
■グリース

メーカ	グリース	
	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日本石油	エピノックグリースAPNo.2	PAN WBグリース
コスモ石油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
共同石油	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出光興産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三菱石油	シャーシグリースNo.2	ホイールベアリング HDグリースNo.2
ゼネラル石油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キグナス石油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

主な消耗部品一覧表

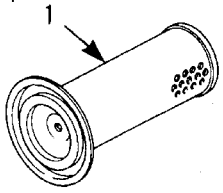


F-6592



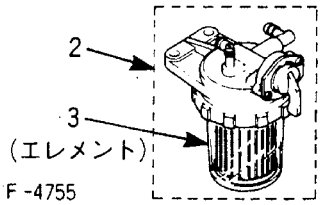
F-6593

エアークリーナ
エレメント



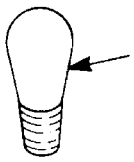
F-5271

燃料フィルタ



F-4755

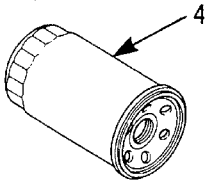
電球



F-4759

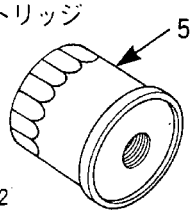
10(ヘッドライト)
11(ウインカ横)
12(ウインカ後)
13(車幅灯前)
14(車幅灯後,テールランプ,ブレーキ)
15(番号灯)
16(後退灯)

油圧オイルフィルタ
カートリッジ



F-6323

エンジンオイルフィルタ
カートリッジ

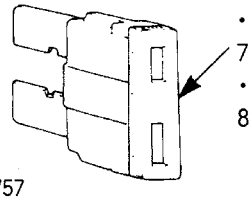


F-6342

イージーチェッカ用ランプ
グローランプ
バッテリチャージランプ
ラジエータランプ
エンジンオイルランプ
自己診断ランプ
17
倍速ターンランプ
バックアップランプ
18

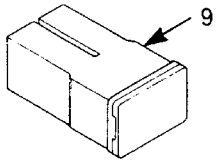
F-5086

ヒューズ



F-4757

スローブローヒューズ



F-5849

図番	品名	品番	図番	品名	品番
1	エアークリーナエレメントアッシ	17351-1108-0	11	デンキュウ	38450-3421-0
2	フューエルフィルタアッシ	15521-4301-0		デンキュウ【GL-35・43仕様】	38150-3384-0
3	フィルタエレメント	15521-4316-0	12	デンキュウ	34070-9911-0
4	オイルフィルタカートリッジ	34550-3310-0		デンキュウ【GL-35・43仕様】	31391-3436-0
5	オイルフィルタカートリッジ	17321-3243-0	13	デンキュウ【GL-40・46・53仕様】	38150-3385-0
6	ヒューズ10A	31351-3363-0	14	デンキュウ【GL-40・46・53仕様】	31301-3437-0
7	ヒューズ15A	31351-3364-0	15	デンキュウ【GL-40・46・53仕様】	36200-7583-0
8	ヒューズ20A	36919-5665-0	16	デンキュウ【GL-40・46・53仕様】	36530-7598-0
9	スローブローヒューズ【GL-35・43仕様】	34670-3453-0	17	ランプ	38240-3147-0
	スローブローヒューズ【GL-40・46・53仕様】	35080-3453-0	18	ランプ	38070-3147-0
10	デンキュウ【GL-35・43仕様】	34070-9901-0			
	デンキュウ【GL-40・46・53仕様】	38450-3387-0			

アタッチメント一覧表

分類	品番	品名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
補助車輪	998222-1002	水田車輪取付け台アッシ	GL-35 GL-40 GL-43	●片側にストレーク7枚取付け用 ●12.4－28用	G25,G35の何れかの反転ストレークアッシ
	995563-1001	G20反転ストレークアッシ		シュー幅20cm 左右7組／1台	上記の水田車輪取付け台アッシ
	995563-2001	G35反転ストレークアッシ		シュー幅35cm 左右7組／1台	
	997122-5001	折りたたみストレークアッシ	GL-35 GL-40	12.4－28用	
	998322-3001		GL-43	13.6－26用	
ウエイト	990911-2001	前部ウエイトアッシ	GL-35 GL-40 GL-43 GL-46 GL-53	20kg,前車軸フレームの前部バンパに取付け	
	99261-11000	前部ウエイトアッシ		25kg,前車軸フレームの前部バンパに取付け	
	998311-5001	後輪ウエイトアッシ	GL-43	33kg×6個,13.6－26用	
	998311-5111	後輪ウエイト		33kg,998311-5001に必要に応じて追加,全12個まで, (タイヤ1.0kg／cm²)	
	994111-5001	後輪ウエイトアッシ	GL-35 GL-40 GL-46	35kg×6個,12.4－28用 13.6－28用	
	994111-5113	後輪ウエイト		35kg,994111-5001に必要に応じて追加	
	998811-5001	後輪ウエイトアッシ	GL-53	50kg×4個,12.4－32用	
	998811-5111	後輪ウエイト		50kg,998811-5001に必要に応じて追加	

分類	品　番	品　名	適用機種	用途・仕様	併用アタッチメント
そ	992338-5001	安全フレーム用日よけ	GL-35 GL-40 GL-43 GL-46 GL-53	豪華樹脂製日よけ 安全フレームに追加装着できます。	
	992338-7001	安全フレーム用日よけ(簡易型)		鉄板製枠に幌製天がい	
	990641-4001	サンバイザアッシ		安全フレーム用日よけアッシ(992338-5001)(992338-7001)に追加装着できます。	
	963971-5101	洗車ポンプ		後部PTO軸に取付け スーパージョイント付には取付けできません。	
	99021-94001	洗車ダッシュポンプ		スーパージョイント付きに使用。 スーパージョイント無し使用不可。	
	99263-78001	GL-53 スイングドローバアッシ		けん引作業時に使用。	
	99263-75001	延長ヒッチアッシ		けん引作業時に使用。	
	990619-1001	作業灯アッシ		12V27W 安全フレーム用(キャビンには装着できません)	
の	34550-75302	作業灯アッシ		12V27W　2灯 ブラケット,スイッチ含む。 キャビン専用，前にも後にも使用可。	
	71067-08000	GL-43 1連補助コンアッシ	GL-35 GL-40 GL-43		
	71067-08100	GL-43 2連補助コンアッシ			
他	71067-08030	GL-53 1連補助コンアッシ	GL-46 GL-53		
	71067-08040	GL-53 2連補助コンアッシ			
	71067-08020	GL-43 2連目補助コンアッシ	GL-35 GL-40 GL-43	先に1連補助コンアッシを購入して,後で2連にするときに必要。	
	71067-08050	GL-53 2連目補助コンアッシ	GL-46 GL-53		

インプルメント一覧表

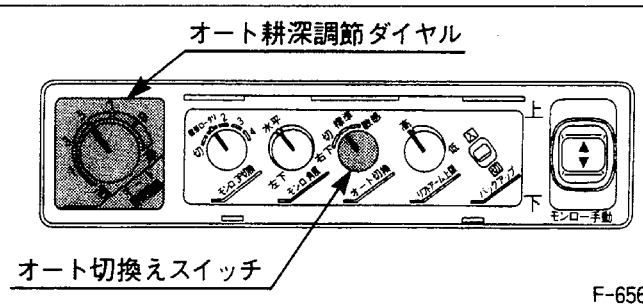
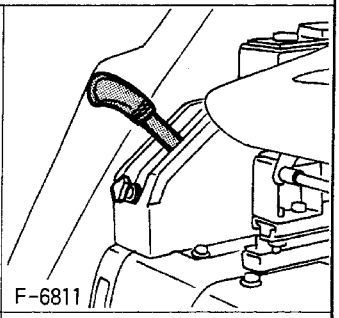
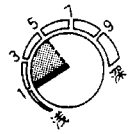
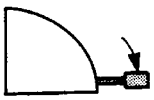
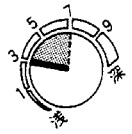
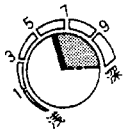
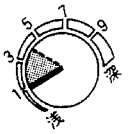
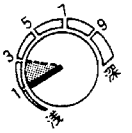
品番	品名	適用形式					メーカ
		GL-35	GL-40	GL-43	GL-46	GL-53	
75833-08110	TLH43Gグレイタスローダ	○	○	○			
75833-08120	TLH43G-SLグレイタスローダ	○	○	○			
75833-08130	TLH43G-PSLグレイタスローダ	○	○	○			
75834-08110	TLH53Gグレイタスローダ				○	○	
75834-08120	TLH53G-SLグレイタスローダ				○	○	
75834-08130	TLH53G-PSLグレイタスローダ				○	○	
先端アタッチメント							
75755-08060	LHH422ADヘイフォーク(タイン本数8本)	○	○	○	○	○	
75759-08030	LMHH422AD多本爪ヘイフォーク(タイン本数15本)	○	○	○	○	○	
75936-08140	CTB2535コンテナバケット	○	○	○	○	○	
75970-08050	LPFH422ADパレットフォーク(タイン本数2本)	○	○	○	○	○	
75943-08060	LGH422ADグレーダ	○	○	○	○	○	
75947-08030	LAGH422ADアングルグレーダ	○	○	○	○	○	
75986-08060	LFH422ADローディングフック	○	○	○	○	○	
75703-08070	CW400カウンターウェイト	○	○	○	○	○	
75703-08110	CWE1カウンターウェイト	○	○	○	○	○	
75938-08030	LSBH422AD特殊広幅バケット(容量0.22m³)	○	○	○	○	○	クボタ
75939-08030	LSCBH422AD特殊広幅爪付バケット(容量0.22m³)	○	○	○	○	○	
75726-08060	LBH422ADバケット(容量0.19m³)	○	○	○	○	○	
75923-08060	LCBH422AD爪付バケット(容量0.19m³)	○	○	○	○	○	
75933-08050	LWBH422AD広幅バケット(容量0.20m³)	○	○	○	○	○	
75926-08160	LWCBH422AD広幅爪付バケット(容量0.20m³)	○	○	○	○	○	
75936-08070	LWKBH422AD軽質広幅バケット(容量0.26m³)	○	○	○	○	○	
75951-08030	LLBH422AD大容量バケット(容量0.5m³)	○	○	○	○	○	
75933-08070	LWBH422ADZ広幅バケット亜鉛メッキ(容量0.20m³)	○	○	○	○	○	
75926-08250	LWCBH422ADZ広幅爪付バケット亜鉛メッキ(容量0.20m³)	○	○	○	○	○	
75927-08030	LTBH422AD溝掘バケット(容量0.07m³)	○	○	○	○	○	
75928-08030	LTCBH422AD溝掘爪付バケット(容量0.07m³)	○	○	○	○	○	
75937-08030	LMBH422ADマニアバケット(タイン本数8本)	○	○	○	○	○	
75796-08060	LMH422AD標準マニアフォーク(タイン本数6本)	○	○	○	○	○	
75798-08080	LWMH422AD広幅マニアフォーク(タイン本数9本)	○	○	○	○	○	
75799-08030	LMMH422AD多本爪マニアフォーク(タイン本数8本)	○	○	○	○	○	
75790-08030	LWMMH422AD広幅多本爪マニアフォーク(タイン本数13本)	○	○	○	○	○	

【注】

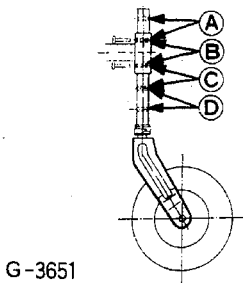
(1)SLは電磁バルブ仕様，PSLはマイコン電磁バルブ仕様です。

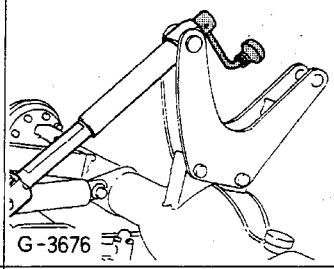
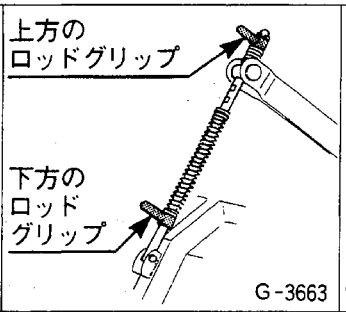
(2)キャビン付トラクタにはSL，PSL型グレイタスローダを装着してください。

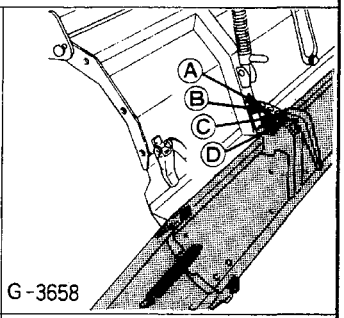
作業ごとの一般的な調整要領

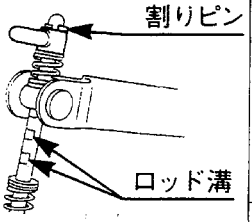
作業内容	操作方法	操作調整箇所		
		 F-6564		 F-6811
		オート耕深調節ダイヤル オート/ドラフト耕深調節ダイヤル	オート切換えスイッチ オート/ドラフト切換えスイッチ	ポジションレバー
浅起し （5～8cm）	オート 【MA仕様 MAD仕様】			 「最下位置」
	ポジション コントロール	—		
一般耕うん （8～15cm）	オート 【MA仕様 MAD仕様】			
	ポジション コントロール	—		
深起し （15cm以上）	オート 【MA仕様 MAD仕様】			
	ポジション コントロール	—		
代かき（10～12cm） 一般ほ場	オート 【MA仕様 MAD仕様】			
湿田ほ場	オート 【MA仕様 MAD仕様】			
一般湿田	ポジション コントロール	—		
畝立て	ポジション コントロール	—		

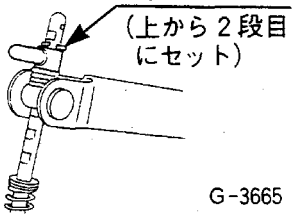
※主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。
　土質など作業条件に合せて適宜調整してください。

<table>
<tr><th colspan="4">操　作　調　整　箇　所</th></tr>
<tr><td> 

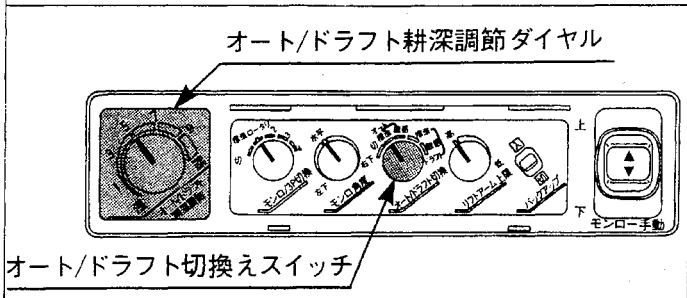
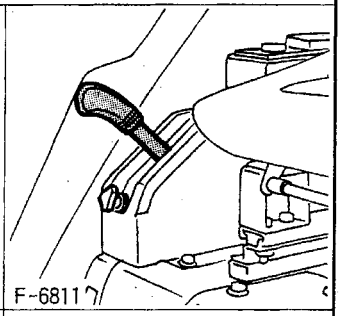
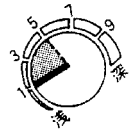
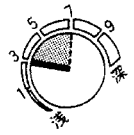
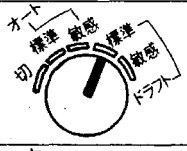
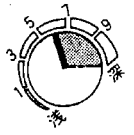
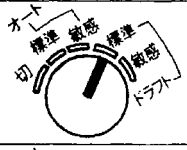
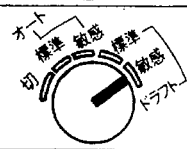
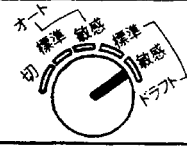
G-3651</td><td> 
G-3676</td><td> 

G-3663</td><td> 

G-3658</td></tr>
<tr><td>後２輪上下調節</td><td>後２輪ハンドル</td><td>ロッドグリップ</td><td>フラップカバー</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>――</td><td rowspan="11">●上方のロッドグリップ
一番上の溝にセット
します。
 

G-3664
マッドレスロータリ使用時
割りピン
（上から２段目
にセット）
 
G-3665
●下方のロッドグリップ
接地圧条件に合せて
セット</td><td rowspan="2">Ⓑ又はⓒの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓐ又はⒷの位置</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>――</td><td rowspan="2">Ⓑの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓑの位置
（必要に応じて
Ⓑ又はⓒの位置）</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>――</td><td rowspan="2">●荒起し
ⓒの位置
●細土耕うん
Ⓐ又はⒷの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓓの位置</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後２輪を
外します</td><td rowspan="2">――</td><td>ⓒ又はⒹの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓓの位置</td></tr>
<tr><td>Ⓐの位置</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td><td>ⓒ又はⒹの位置</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>希望耕深に
なるよう調整</td><td>●カバーを上げロッドグ
リップでセット</td><td>フラップカバー
を外します</td></tr>
</table>

■オートドラフトコントロールによる作業要領【MAD仕様】

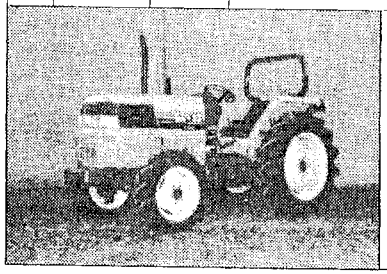
<table>
<tr><th rowspan="3" colspan="2">作業内容</th><th rowspan="3">操作方法</th><th colspan="3">操　作　調　整　箇　所</th></tr>
<tr><td colspan="2"> 
</td><td> 
</td></tr>
<tr><td>オート/ドラフト耕深調節ダイヤル</td><td>オート/ドラフト切換えスイッチ</td><td>ポジションレバー</td></tr>
<tr><td colspan="2">浅起し</td><td>オート
ドラフト</td><td>  </td><td> </td><td rowspan="4">
「最下位置」</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般耕うん</td><td>オート
ドラフト</td><td>  </td><td>  </td></tr>
<tr><td colspan="2">深起し</td><td>オート
ドラフト</td><td>  </td><td>  </td></tr>
<tr><td rowspan="2">ほ場</td><td>一　般</td><td>オート
ドラフト</td><td>任意の位置</td><td> </td></tr>
<tr><td>柔らかい</td><td>オート
ドラフト</td><td>任意の位置</td><td>  </td></tr>
<tr><td colspan="2">ミックス
コントロール
（軟弱他）</td><td>オート
ドラフト</td><td>任意の位置</td><td>  </td><td>作業機の最下位置をポジションレバーできめる。</td></tr>
</table>

※オートドラフトコントロールを使用せず「手動」で作業するときは，オート／ドラフト切換えスイッチを「切」にする。

※感度の切換えは，オート／ドラフト切換えスイッチとトップリンクホルダのトップリンク取付け位置変更の両方でできます。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	91063	型式名	クボタGL-35
		依頼者名	株式会社　クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号



■4輪駆動
■小型特殊自動車
■機関呼称出力：25.7kW {35PS}／2700rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段
（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正4段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF43
（合格番号：91027）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ
■全長：3.50m（バンパー～下部リンク後端）
■全幅：1.46m（後輪最外側）
試験時の前輪輪距1.21m
試験時の後輪輪距1.14m
■全高：1.98m（安全フレーム）
■質量：1572kg（付加重錘なし）
前輪727kg　後輪845kg
■軸距：1.85m
■輪距：前輪1.21m（固定）
後輪1.14，1.21，1.31，1.33，1.43，1.51，1.60m　（7段階）
■タイヤ：前輪 8-18-4 PR
後輪12.4-28-4 PR
■PTO軸高さ：0.53m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.60m

2．機　関
■種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル
■呼称出力：25.7kW {35PS}／2700rpm
■総行程容積：1.499 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：あり

3．伝動装置
■主クラッチ形式：湿式多板
■主変速：8段
■副変速：2段
■前進：16段（0.2～13.7km／h）
■後進：16段（0.2～13.2km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

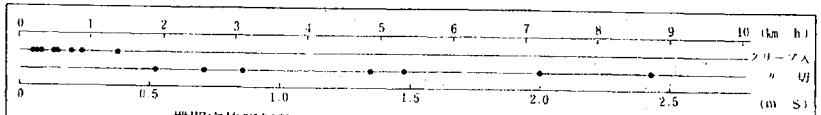
4．PTO
■クラッチ形式：普通型
■規　格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
正転578，781，950，1249rpm
逆転781rpm

5．けん引装置
■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF1／4，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置
■形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム
■型式名：クボタGSF43
（合格番号：91027）



機関定格回転数における前進走行速度（・印で15速まで表示）
※上段：クリープ変速(入)　下段：クリープ変速(切)

II　検　査　成　績

1．PTO性能
■トルクバックアップ比：1.16
■弾　性　値：1.54
■最大出力時：

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
25.1kW {34.1PS}	284g／kW・h {209g／PSh}	514rpm	3％

2．けん引性能（コンクリート上）

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	10.85kN {1106kgf}	6.94kW {9.44PS}	2.30km／h (10速)
7.5km／hに最も近い速度段	10.94kN {1116kgf}	18.4kW {25.0PS}	6.05km／h (14速)
最大けん引出力	8.77kN {894kgf}	19.3kW {26.2PS}	7.91km／h (15速)

3．作業機昇降装置性能
■リリーフ弁設定圧力：16.5MPa {168kgf／cm²}
■油圧ポンプ性能：

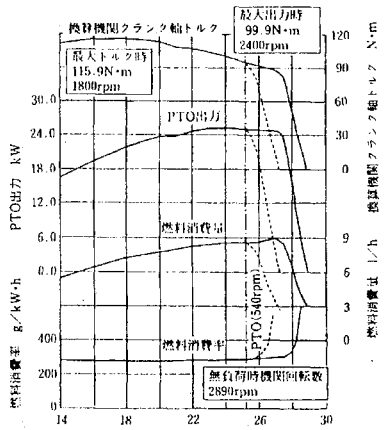
条件	流量	圧力	出力
最大出力	25.7 l／min	15.2MPa {155kgf/cm²}	6.51kW {8.85PS}
リリーフ弁設定圧力の90％	25.9 l／min	14.8MPa {151kgf/cm²}	6.39kW {8.69PS}

■揚力（リリーフ弁設定圧力の90％圧力時換算）：

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	12.16kN {1240kgf}
フレーム上	10.40kN {1060kgf}

4．騒音（運転者の耳もと）：88dB(A)

5．静的横転倒角：39°



※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）
ブレーキ使用時：2.50m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％又は油圧ポンプ最大出力時圧力のどちらか低い方の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成2年3月20日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	91064	型式名	クボタGL-40	平成4年2月4日
		依頼者名	株式会社　クボタ	生物系特定産業技術
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	研究推進機構

■4輪駆動
■大型特殊自動車
■機関呼称出力：29.4kW {40PS}／2600rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段
（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正4段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF53
（合格番号：91028）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ

■全長：3.50m（バンパ～下部リンク後端）
■全幅：1.55m（後輪最外側）
試験時の前輪輪距1.21m
試験時の後輪輪距1.22m
■全高：2.20m（安全フレーム）
■質量：1597kg（付加重錘なし）
前輪736kg　後輪861kg
■軸距：1.85m
■輪距：前輪1.21m（固定）
後輪1.15，1.22，1.32，1.34，1.44，1.52，1.61m　（7段階）
■タイヤ：前輪8-18-4 PR
後輪12.4-28-4 PR
■PTO軸高さ：0.53m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.60m

2．機　関

■種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
■呼称出力：29.4kW {40PS}／2600rpm
■総行程容積：2.197 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：なし

3．伝動装置

■主クラッチ形式：湿式多板
■主変速：8段
■副変速：2段
■前進：16段（0.2～24.2km／h）
■後進：16段（0.2～19.3km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

4．PTO

■クラッチ形式：普通型
■規　格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
正転585，789，961，1263rpm
逆転789rpm

5．けん引装置

■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置

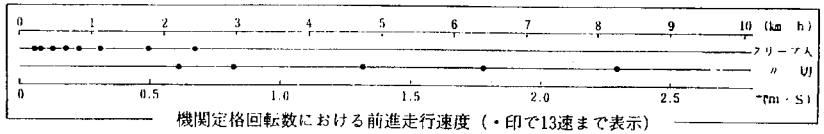
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF 1／4，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置

■形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム

■型式名：クボタGSF53
（合格番号：91028）



機関定格回転数における前進走行速度（・印で13速まで表示）
※上段：クリープ変速(入)　下段：クリープ変速(切)

II　検　査　成　績

1．PTO性能

■トルクバックアップ比：1.28
■弾　性　値：2.14
■最大出力時：

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
26.5kW {36.0PS}	292g／kW・h {215g／PSh}	563rpm	1％

2．けん引性能（コンクリート上）

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	10.97kN {1119kgf}	8.22kW {11.2PS}	2.70km／h (10速)
7.5km／hに最も近い速度段	10.12kN {1032kgf}	21.0kW {28.6PS}	7.45km／h (13速)
最大けん引出力	7.38kN {753kgf}	21.5kW {29.2PS}	10.49km／h (14速)

3．作業機昇降装置性能

■リリーフ弁設定圧力：16.5MPa {168kgf／cm²}
■油圧ポンプ性能：

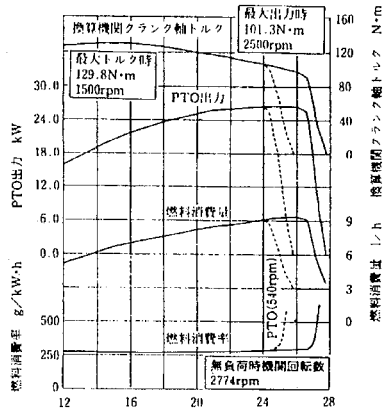
条件	流量	圧力	出力
最大出力	24.8 l／min	14.0MPa {143kgf／cm²}	5.80kW {7.88PS}
リリーフ弁設定圧力の90％	19.7 l／min	14.8MPa {151kgf／cm²}	4.86kW {6.61PS}

■揚力（油圧ポンプ最大出力時圧力換算）：

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	11.52kN {1175kgf}
フレーム上	9.86kN {1005kgf}

4．騒音（運転者の耳もと）：87.5dB(A)

5．静的横転倒角：39°



※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）

ブレーキ使用時：2.51m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％又は油圧ポンプ最大出力時圧力のどちらか低い方の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成2年3月20日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	91065	型式名	クボタGL-43	平成4年2月4日
		依頼者名	株式会社 クボタ	生物系特定産業技術研究推進機構
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	

■4輪駆動
■小型特殊自動車
■機関呼称出力：31.6kW {43PS}／2700rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段
（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正4段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF43
（合格番号：91027）

I 主要諸元・構造

1．機体の大きさ

■全長：3.50m（バンパ～下部リンク後端）
■全幅：1.48m（後輪最外側）
試験時の前輪輪距1.21m
試験時の後輪輪距1.14m
■全高：1.98m（安全フレーム）
■質量：1578kg（付加重錘なし）
前輪728kg　後輪850kg
■軸距：1.85m
■輪距：前輪1.21m（固定）
後輪1.14，1.21，1.24，1.41，1.43，1.50，1.53m　（7段階）
■タイヤ：前輪 8-18-4 PR
後輪13.6-26-4 PR
■PTO軸高さ：0.53m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.60m

2．機関

■種類：水冷4サイクル3気筒ディーゼル
■呼称出力：31.6kW {43PS}／2700rpm
■総行程容積：1.499 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：あり

3．伝動装置

■主クラッチ形式：湿式多板
■主変速：8段
■副変速：2段
■前進：16段（0.2～13.7km／h）
■後進：16段（0.2～13.2km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

4．PTO

■クラッチ形式：普通型
■規格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
正転578，781，950，1249rpm
逆転781rpm

5．けん引装置

■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置

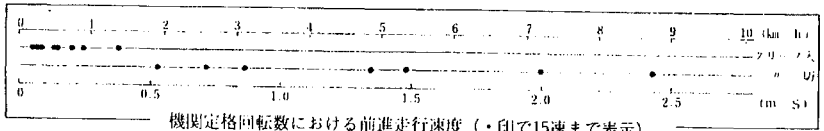
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF 1／4，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置

■形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム

■型式名：クボタGSF43
（合格番号：91027）



機関定格回転数における前進走行速度（・印で15速まで表示）
※上段：クリープ変速(入)　下段：クリープ変速(切)

II 検査成績

1．PTO性能

■トルクバックアップ比：1.21
■弾性値：1.79
■最大出力時：

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
27.9kW {37.9PS}	283g／kW・h {208g／PSh}	540rpm	2％

2．けん引性能（コンクリート上）

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	11.75kN {1198kgf}	5.57kW {7.57PS}	1.71km／h（9速）
7.5km／hに最も近い速度段	11.75kN {1198kgf}	20.3kW {27.6PS}	6.21km／h（14速）
最大けん引出力	6.88kN {702kgf}	22.5kW {30.6PS}	11.75km／h（16速）

3．作業機昇降装置性能

■リリーフ弁設定圧力：16.5MPa {168kgf／cm²}
■油圧ポンプ性能：

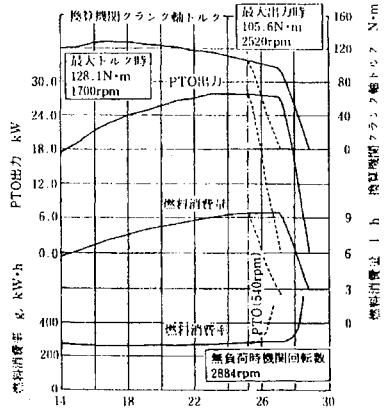
条件	流量	圧力	出力
最大出力	25.7 l／min	15.2MPa {155kgf／cm²}	6.51kW {8.85PS}
リリーフ弁設定圧力の90％	25.9 l／min	14.8MPa {151kgf／cm²}	6.39kW {8.69PS}

■揚力（リリーフ弁設定圧力の90％圧力時換算）：

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	12.16kN {1240kgf}
フレーム上	10.40kN {1060kgf}

4．騒音（運転者の耳もと）：89dB(A)

5．静的横転倒角：39°



※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）

ブレーキ使用時：2.52m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％又は油圧ポンプ最大出力時圧力のどちらか低い方の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III 付記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成2年3月20日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	91066	型式名	クボタGL-46
		依頼者名	株式会社　クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

平成1年2月1日
農業機械化研究所

■4輪駆動
■大型特殊自動車
■機関呼称出力：33.8kW｛46PS｝／2600rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段
（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正4段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF53
（合格番号：91028）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ

■全長：3.63m（バンパ～下部リンク後端）
■全幅：1.56m（後輪最外側）
試験時の前輪輪距1.21m
試験時の後輪輪距1.22m
■全高：2.20m（安全フレーム）
■質量：1697kg（付加重錘なし）
前輪778kg　後輪919kg
■軸距：1.99m
■輪距：前輪1.21m（固定）
後輪1.15，1.22，1.32，1.34，1.44，1.52，1.61m　（7段階）
■タイヤ：前輪 8-18-4 PR
後輪13.6-28-4 PR
■PTO軸高さ：0.56m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.60m

2．機　関

■種類：水冷4サイクル5気筒ディーゼル
■呼称出力：33.8kW｛46PS｝／2600rpm
■総行程容積：2.499 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：なし

3．伝動装置

■主クラッチ形式：湿式多板
■主変速：8段
■副変速：2段
■前進：16段（0.2～25.4km／h）
■後進：16段（0.2～20.3km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

4．PTO

■クラッチ形式：普通型
■規　格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
正転585，789，961，1263rpm
逆転789rpm

5．けん引装置

■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置

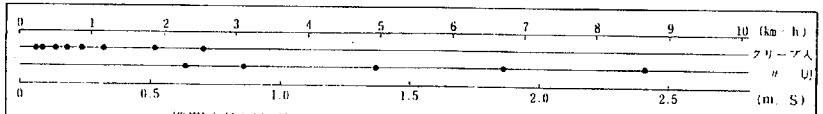
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF 1／4，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置

■形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム

■型式名：クボタGSF53
（合格番号：91028）



機関定格回転数における前進走行速度（・印で13速まで表示）
※上段：クリープ変速(入)　下段：クリープ変速(切)

II　検　査　成　績

1．PTO性能

■トルクバックアップ比：1.17
■弾　性　値：1.76
■最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
30.2kW｛41.1PS｝	284g／kW・h｛209g／PSh｝	540rpm	0%

2．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	12.93kN｛1318kgf｝	9.92kW｛13.5PS｝	2.76km／h（10速）
7.5km／hに最も近い速度段	13.07kN｛1333kgf｝	21.3kW｛29.0PS｝	5.87km／h（12速）
最大けん引出力	9.03kN｛921kgf｝	25.0kW｛34.0PS｝	9.96km／h（14速）

3．作業機昇降装置性能

■リリーフ弁設定圧力：16.5MPa｛168kgf／cm²｝
■油圧ポンプ性能：

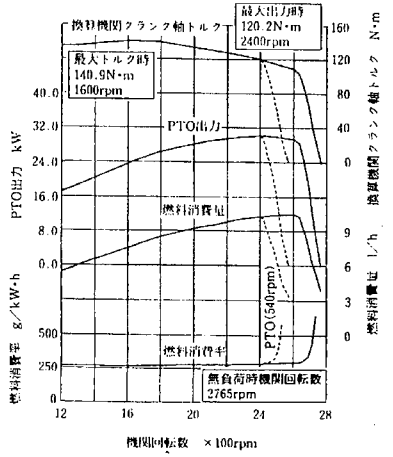
条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	24.8 l／min	14.0MPa｛143kgf/cm²｝	5.80kW｛7.88PS｝
リリーフ弁設定圧力の90%	19.7 l／min	14.8MPa｛151kgf/cm²｝	4.86kW｛6.61PS｝

■揚力（油圧ポンプ最大出力時圧力換算）：

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	11.52kN｛1175kgf｝
フレーム上	9.86kN｛1005kgf｝

4．騒音（運転者の耳もと）：88.5dB(A)

5．静的横転倒角：38°



※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）

ブレーキ使用時：2.68m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%又は油圧ポンプ最大出力時圧力のどちらか低い方の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成2年3月20日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	91067	型式名	クボタGL-53	平成4年2月4日
		依頼者名	株式会社　クボタ	生物系特定産業技術研究推進機構
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	

■4輪駆動
■大型特殊自動車
■機関呼称出力：39.0kW {53PS}／2600rpm
■走行速度段数：前進16段　後進16段
（シャトル変速）
■クリープ変速付き
■PTO変速段数：正4段　逆1段
■パワーステアリング付き
■旋回時前輪増速機構付き
■水平・耕深制御装置付き
■安全キャブ付きもあり
■装着安全フレーム：型式名　クボタGSF53
（合格番号：91028）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ

■全長：3.63m（バンパ～下部リンク後端）
■全幅：1.51m（後輪最外側）
試験時の前輪輪距1.23m
試験時の後輪輪距1.18m
■全高：2.23m（安全フレーム）
■質量：1749kg（付加重錘なし）
前輪792kg　後輪957kg
■軸距：1.99m
■輪距：前輪1.23m（固定）
後輪1.18，1.27，1.37，1.47，1.57m
（5段階）
■タイヤ：前輪8.3-20-4PR
後輪12.4-32-4PR
■PTO軸高さ：0.58m
■PTO軸端～下部リンク後端：0.60m

2．機　関

■種類：水冷4サイクル5気筒ディーゼル
■呼称出力：39.0kW {53PS}／2600rpm
■総行程容積：2.746 l
■燃焼室形式：渦流室式
■過給機：なし

3．伝動装置

■主クラッチ形式：湿式多板
■主変速：8段
■副変速：2段
■前進：16段（0.2～26.3km／h）
■後進：16段（0.2～21.0km／h）
■デフロック装置：あり（後輪）

4．PTO

■クラッチ形式：普通型
■規　格：6スプライン軸径35mm
■回転数（機関定格回転数のとき）：
正転585，789，961，1263rpm
逆転789rpm

5．けん引装置

■形式：固定ヒッチ

6．作業機昇降装置

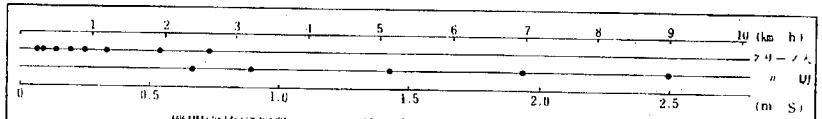
■制御方式：ポジションコントロール
■油圧外部取出口：PF1／4，1個
■作業機装着装置：3点リンク1形

7．かじ取装置

■形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム

■型式名：クボタGSF53
（合格番号：91028）



機関定格回転数における前進走行速度（・印で13速まで表示）
※上段：クリープ変速(入)　下段：クリープ変速(切)

II　検　査　成　績

1．PTO性能

■トルクバックアップ比：1.27
■弾　性　値：2.17
■最大出力時：

出力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
34.0kW {46.2PS}	304g／kW・h {226g／PSh}	576rpm	4％

2．けん引性能（コンクリート上）

条件	けん引力	けん引出力	速度
最大けん引力	13.52kN {1379kgf}	8.08kW {11.0PS}	2.15km／h（8速）
7.5km／hに最も近い速度段	13.38kN {1364kgf}	22.6kW {30.7PS}	6.09km／h（12速）
最大けん引出力	9.16kN {934kgf}	28.6kW {38.9PS}	11.24km／h（14速）

3．作業機昇降装置性能

■リリーフ弁設定圧力：16.5MPa {168kgf／cm²}
■油圧ポンプ性能：

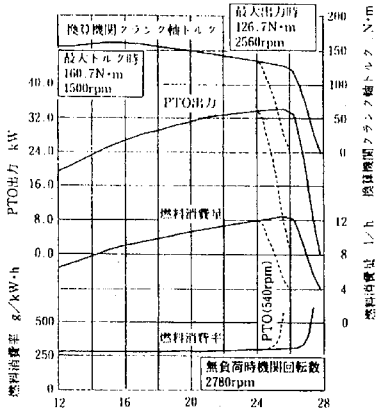
条件	流量	圧力	出力
最大出力	24.8 l／min	14.0MPa {143kgf／cm²}	5.80kW {7.88PS}
リリーフ弁設定圧力の90％	19.7 l／min	14.8MPa {151kgf／cm²}	4.86kW {6.61PS}

■揚力（油圧ポンプ最大出力時圧力換算）：

条件	揚力
下部リンクヒッチ点	11.52kN {1175kgf}
フレーム上	9.86kN {1005kgf}

4．騒音（運転者の耳もと）：88dB(A)

5．静的横転倒角：39°



※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）

ブレーキ使用時：2.72m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100％の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15％時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90％又は油圧ポンプ最大出力時圧力のどちらか低い方の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成2年3月20日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成3年7月30日
生研系特定産業技術研究推進機構

型 式 名：**クボタ GSF43**

合格番号：91027
種　　類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名：依頼者に同じ
住　　所：

I　装着可能トラクター

1．型 式 名
　クボタ GL−43　　クボタ GL−35

2．主要諸元

■型　式　名		クボタ GL−43	クボタ GL−35
■種　　類		4輪駆動	4輪駆動
■質量(フレーム付き)	kg：	1550	1545
■軸　　距	mm：	1850	1850
■機関出力／回転数	kW{PS}／rpm：	31.6{43}／2700	25.7{35}／2700

II　構造の概要

1．構造及び装着法
　供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり，取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

2．主な装備
　シートベルト（2点式）

3．主要寸法※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		85.5 cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		121.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		92.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		− cm
■戸口の幅	(上部)	− cm
	(中部)	− cm
	(下部)	− cm
■戸口の高さ	(フートプレートから)	− cm
■最低位ステップの高さ		45.0 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	(屋根部材上面まで)	195.5 cm
■フレームの全幅		105.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		32.5 cm

※1．クボタ GL−43（タイヤサイズ：前輪8−18　後輪13.6−26）に装着時。
　2．トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，N94850
　3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主 フ レ ー ム：STKR 41，SS 41
■装着ブラケット：SS 41
■組立・装着ボルト：S40C～S45C

III　検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。
■基　準　質　量：1600 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷 2.58 kJ{263 kgf·m}
　側部負荷 3.34 kJ{340 kgf·m}
■圧　壊　力：23.54 kN{2400 kgf}
2）試験後のフレームの永久変位
■後　部（前 方 へ）：右側　11.5 cm　　左側　9.0 cm
■側　部（右側方へ）：14.0 cm
■上　部（下 方 へ）：右側　4.0 cm　　左側　−0.0 cm
3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：7.0 cm

2．騒　音※
■90 dBA〔クボタ GL−43〕　89 dBA〔クボタ GL−35〕
※7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

IV　付　記

強度試験はコードIIによって実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型 式 名：**クボタ GSF53**

合格番号：91028
種　　類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
製造者名：依頼者に同じ
住　　所：

I　装着可能トラクター

1．型 式 名
クボタ GL−53　　クボタ GL−46　　クボタ GL−40

2．主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型　式　名		クボタ GL−53	クボタ GL−40
■種　類		4輪駆動	4輪駆動
■質量(フレーム付き)	kg	1745	1600
■軸　距	mm	1985	1850
■機関出力／回転数	kW{PS}／rpm	39.0{53}／2600	29.4{40}／2600

II　構造の概要

1．構造及び装着法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり，取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

2．主な装備
シートベルト（2点式）

3．主要寸法※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		100.0 cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		142.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		95.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		− cm
■戸口の幅	(上部)	− cm
	(中部)	− cm
	(下部)	− cm
■戸口の高さ	(フートプレートから)	− cm
■最低位ステップの高さ		50.0 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	(屋根部材上面まで)	221.0 cm
■フレームの全幅		108.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		37.0 cm

※1．クボタ GL−53（タイヤサイズ：前輪8.3−20　後輪12.4−32）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：難波プレス工業，N94850
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主 フ レ ー ム：STKR 41，SS 41
■装着ブラケット：SS 41
■組立・装着ボルト：S40C～S45C

III　検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。
■基　準　質　量：1750 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷 2.82 kJ{287 kgf·m}
側部負荷 3.54 kJ{361 kgf·m}
■圧　壊　力：25.74 kN{2625 kgf}
2）試験後のフレームの永久変位
■後　部（前 方 へ）：右側　15.0 cm　左側　13.0 cm
■側　部（右側方へ）：14.5 cm
■上　部（下 方 へ）：右側　0.0 cm　左側　3.5 cm
3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：8.5 cm

2．騒　音※
■89 dBA〔クボタ GL−53〕　87 dBA〔クボタ GL−40〕
※7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

IV　付　記

強度試験はコードIIによって実施した。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

GLシリーズ②
Y. ◉. 5－5. 15. K

株式会社クボタ

本社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06) 648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03) 3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011) 214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022) 267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052) 564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ヒル)	〒812	電(092) 473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011) 662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022) 384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048) 862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722) 41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862) 79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092) 606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722) 41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286) 61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752) 5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720) 40-1121
堺部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722) 45-8601
宇都宮部品センター	宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286) 63-6336
筑波部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752) 2293
枚方部品センター	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720) 40-1797
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町字大曲186-37	〒061-12	電(011) 376-2335

株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188) 45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022) 384-5151

株式会社クボタアグリ東京

東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048) 862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025) 285-1261

株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762) 75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586) 24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722) 41-8550

株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859) 33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862) 79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878) 74-5091

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092) 606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096) 357-6181

品番　34550—1921—3